

平成 30 年度 社会福祉法人 敬和会 事業報告

事業総括

近年、社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変化しております。現在、社会福祉法が改正され、社会福祉法人に対しては、組織の管理監督機能の強化が求められておりますが、理事会・評議員会において審議をいただき、定款、諸規程の整備がなされ、中長期にわたり安定した経営基盤の確立のために経営力の強化に鋭意努力をしてきたところでございます。次年度に向けて、法改正を踏まえた法人としてのガバナンス強化と財務規律・透明性の向上に取り組み、主体性をもった自立的な経営を実行してまいります。

利用者がより安全で安心して生き甲斐のもてる、地域社会への開かれた施設運営を目指し、法人の本部体制の強化並びに人財の確保・育成策等を充実強化することを目的として事業を展開してまいりました。

本年度は、後述する 4 つの重点課題に取り組みました。中でも「利用者サービスの質の向上」については、一人ひとりの職員が「気づき、考え、行動できる」ことでサービスの質の向上に繋がると考えております。また、今日の社会の多種多様なニーズにも対応すべく、求められている地域包括ケアの中核をなす機関として、期待される荻野地域包括支援センターでの取り組みにも重きをおき、地域共生社会の実現に向けた取り組みも進めてまいりました。

本年度における各事業所の実績（稼働率）は、下表に示す通りです。

事業所	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比
高齢者生活支援施設けいわ荘	98.0%	98.1%	+0.1%
特別養護老人ホームユニテけいわ	99.0%	98.1%	-0.9%
短期入所生活介護	103.7%	105.3%	+1.6%
訪問介護	5,332 人	4,600 人	-13.7%
障害自立支援	353 件	486 件	+37.7%
通所介護	60.1%	61.0%	+0.9%
通所事業所えまーぶる	67.8%	73.1%	+5.3%
ケアハウスえがりて	85.0%	84.7%	-0.3%
居宅介護支援	1,409 件	1,428 件	+1.3%
ケアプランセンターけいわ	1,671 件	1,481 件	-11.4%
居宅介護支援事業所えまーぶる	1,218 件	1,372 件	+12.6%

高齢者生活支援施設けいわ荘においては、永眠による空床期間を短期入所生活介護の受け入れ（空床利用）でカバーでき（稼働率 105.3%：前年度比 1.6%増）

堅調な伸びを示すことができました。また、居宅介護においては、通所介護が稼働率61.0%（前年度比0.9%増）、通所介護事業所えまーぶるが、稼働率73.1%（前年度比5.3%増）、特に3月では、稼働率96.1%を示しました。居宅介護支援においては計画件数が1,428件（前年度比1.3%増）、居宅介護支援事業所えまーぶるの計画件数が1,372件（前年度比12.6%増）を記録し、高く評価するところであります。

職員集団が経営理念の原点に立ち返り、日々の努力が成果として実った年度であります。

ご利用者にとって住環境は大変重要な視点であります。安心・安全を保障するものであり、平成30年10月初旬より2ヶ月をかけて、新館全箇所及び本館主要箇所の空調設備の全面的リニューアル工事を、また、3月には本館（さざんか・コスモス）ナースコール設備更新工事が行われ、ハード面の整備とともに快適な生活を提供することができました。

地域共生社会の実現に向けて、積極的に取り組んだ年度でもありました。神奈川県が2年前に試行したインクルーシブ教育に共感し、パイロット校である県立厚木西高校より2名のインターンシップの受入れを行い、職業教育の一環として大きな成果をあげることが出来ました。また、障害者雇用についても、えびな支援学校第1期生より、現場実習を受け入れ、けいわ荘および通所介護事業所えまーぶるでの実習を重ねる中で、平成31（2019）年度、新採用に繋げることができました。

主な実績

① インクルーシブ（包括的）教育の推進

県では、平成29年度、障がいがあるなしに関わらず、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、共に学び共に育ちながら、能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加できる力を育むために、インクルーシブ教育が始まりました。けいわ荘では、インクルーシブ教育に共鳴し、パイロット校（教育実践推進校）の県立厚木西高校より2名を職業教育の一環としてインターンシップ（就業体験学習）に受け入れ、卒業後の進路に対する意識と社会自立への意欲を高める機会を提供し、双方に大きな成果をあげることができました。

② 障害者雇用への取り組み

平成28年度より、障害者雇用への取り組みを本格化、複数回の現場実習を重ねる中で、平成29年度1名をけいわ荘パート職員として受け入れ、また、平成31（2019）年度に通所介護事業所えまーぶるに1名をパート介護補助職員として受け入れ、将来に向けて有能な職員として成長されることを期待するところであります。全職員が障害者雇用を理解し、職場環境の整備

が今後の大きな課題となります。

③ 幹部職員養成の研修会活性化

月 1 回のペースで、職員の意欲を引き出す処遇と育成を発展的に継続し、限りない成長を促せるよう、幹部職員のマネジメント力を高め、一般職員の資質やモチベーションの向上を目的とする人事考課制度の検討、新事業としての障がい者支援事業への模索など充実した研修会が実施された。

④ ストレスチェックの継続的実施

平成 29 年度より労働安全衛生法の改正により義務化されたストレスチェックを、全職員を対象として実施（3 回目）し、届出を行った。

⑤ 介護業務記録システム「Notener（ノートナー）」運用の本格化

業務の効率化および介護職員の負担軽減を目的に「Notener」の運用開始されて、3 年が経過し、ある程度の効果をあげることができました。

日々現場で忙しい介護スタッフの抱える「介護記録作業時間」の問題を改善し、今よりもご利用者様に寄り添える時間が増えてケアサービスの質の向上と、職員間の情報共有が図られることに、大きく前進しました。

この導入により、労働環境の改善と介護職員のモチベーションアップが期待されるところであります。また、「Notener」の採用により、今後、記録データをもとに様々な指標での分析が簡単にできるようになり、敬和会の組織運営の効率化に貢献できると考えます。

介護記録の電子化には、多くの可能性を秘めており、飛躍的な業務改善が期待できますが、そのためには、更なる研修を重ね、どう使いこなすかが大前提となります。

⑥ 施設内研修会の充実と外部研修会の奨励

職員に対する研修については、施設基準において「従業者に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない」と定められております。特にご利用者の状態像が重度化し、施設に求められる役割が大きく変化している今日では、職員のスキルアップのための研修はますます欠かせないものとなっており、当法人では、研修会参加への奨励を積極的に推進してまいりました。

施設内および外部研修会に参加奨励することにより、これまでの業務の内容を顧みつつ、「使える知識」修得とスキルアップ（技術）と意識（価値観）の醸成に大きな成果を上げることができました。

⑦ 地域への社会貢献の推進

(1) 中学生の職場体験学習の定期化

中学校の年間行事計画に位置づけられ、荻野中学校 2 名、小鮎中学校 2 名の職場体験学習が実施されました。核家族化が進んで高齢者の介護に縁がない子どもが増えております。このような現状の中で、介護体験は重要な意味があり、中学生と介護との接点をつくり、基礎的・基本的知識を学ぶ学習の場となりました。

(2) 看護実習

高齢者とのコミュニケーションや日常生活援助を体験的に学習し、社会貢献を果たしている介護施設の意義と看護職及び介護職の役割を学習することを目的として。神奈川工科大学 18 名、厚木看護学校 10 名の学生を受け入れ、生活相談員指導のもと、将来立派な看護師として社会に貢献できるよう、指導しました。

(3) 教員志望の介護等体験

教員志望の大学生 14 名を受け入れました。義務教育である小学校・中学校の教員免許取得希望の学生には、必修となっております。

けいわ荘における介護等体験は、生活相談員が中心となって、人と人が出会う場所で、それぞれの生き方や価値観の違いを知り、それらの違いから生じる背景を理解した上で、その違いに対して誠実に向き合っていく姿勢を育み、将来有能な教員になることを願い、助言指導をしました。

(4) 補導委託施設として登録（平成 29 年 2 月 1 日）

横浜家庭裁判所からの依頼により、補導委託施設として社会奉仕活動の一環として、これまで 5 名の少年・少女を受入れ、現場実習を実施し、彼らの将来に向けてのライフデザインの一助となった。

(5) 第 35 回納涼祭が盛大に開催

第 35 回納涼祭が、ボランティアの皆さんのご協力のもとに開催いたしました。職員の 35 周年を祝うパフォーマンスやけいわ星の子保育園の園児による遊戯等、多様なプログラムが展開され、ご来賓、ご利用者、ご家族の皆様方、地域住民、地域の子ども達と夏の夜のひとときを楽しむことができました。

⑧ 危機管理対策の検証

サービスを提供する過程において、危機を未然に防止できるよう努めるとともに、万が一にも危機が発生した際には、ご利用者の安心・安全を確保した上で、迅速かつ的確な対応が求められます。そのためには、的確な状況把握、迅速な初動対応、緊急連絡網の整備など体制の整備が必要です。危機発生時に的確に対応するための体制強化を図るべき、以下の点について実行された。

- 施設内に防犯カメラの設置。（平成 29 年度）
- 夜間の警備体制の見直し（マニュアルの修正）。
- 避難訓練および火災訓練に関する施設内研修の実施。
- 職員等安否確認訓練。
- 当法人の消防計画に基づく避難訓練および消火訓練を年 2 回（春・秋）実施した。なお、このうち 1 回は夜間を想定した訓練を実施。
- 都度見直しを行い、災害時に対応できる対策を講じる。
- 火災等の防止対策として自主点検を実施
- 施設内の感染症対策の徹底。

全国的に流行するインフルエンザや感染性胃腸炎の集団発生等の感染予防として、面会者の体調に応じ面会を制限する、あるいは生もの等の持込の自粛、さらに入館時には手指の消毒とともにマスクの着用等の協力を文書通知・館内掲示による周知や受付窓口でのお願いを行う。

⑨ 地域包括ケアシステムの推進

- ・認知症になっても地域で暮らし続けるために・・・

- ① 認知症サポーターの活動を支援
- ② 認知症当事者の活動の場を提供する

例：夏休みこども学習室の開催

RUNTOMOへの参加 など

- ③ 地域の居場所づくりの支援

- ・地域ニーズと人的資源の調査

まつかけ台アンケート調査を実施

- ① 何に困っていますか？

- ② 何ができるのか？

⑩ マニュアルの現状に即応した見直し

マニュアル委員会が中心となり、既存の各種マニュアルを現状に合わせて見直しが行われ、周知するために、新マニュアルを基に9月3日～14日の2週間および11月の1ヶ月間を要して、夜勤者の災害連絡訓練が実施され、災害時における確認作業が行われました。

⑪ 施設「住環境」のリニュアル化

「健康で文化的な生活」を保障し、人権を尊重した生活の最も基礎となるものは「住まい」である。入所者の「安全性と快適性」を確保するために、10月～11月の2ヶ月間をかけて、空調設備の全面的リニュアル（ハード面の整備）および3月に老朽化したナースコール設備の改修工事が行われ、環境整備がなされた。

⑫ 事業継続計画（BCP）の策定

BCPは、Business Continuity Plan の略で、「非常事態に強い法人の経営手法」・「非常時に事業を継続することを目指したものです。

法人にとって望ましくない事態（自然災害・大事故・不祥事等）が生じた際に、迅速に行動し被害を最小限に抑えつつ、最も重要な業務を素早く再開させなければなりません。そのために、業務マニュアルなどの関連資料を非常時用のドキュメントとしてまとめ、常に検証していくことが重要であり、「非常時対応マニュアル」を維持していくために、「事前分析」と「保守運用」の資料をまとめて更新してまいりました。

⑬ 配食サービスの民間事業者への完全移行 一施設での目的達成一

平成 8 年度より開始された「厚木市高齢者等配食サービス委託事業」は、ご利用者の孤立感を防ぎ、食事の提供及び安否確認を目的に実施してまいりました。配食サービスを通して、多くの高齢者・障がい者の生命を守ってき

た実績がございます。

想い出深いサービス事業でしたが、近年、安否確認を伴った食事を届けるサービスが民間で広く普及してきたと共に、地域における見守りや介護・福祉サービス等が多方面にわたり充実してきていることから、事業開始当時の目的は概ね達成されたものと判断しております。

配食サービス事業につきまして、厚木市と担当施設が協議を重ねる中、担当施設での配食サービスは、廃止の結論に至り、平成31年2月末日をもちまして、民間事業者へ完全移行いたしました。

⑭ 働き方改革の推進

平成30年10月1日より、「働き方改革」の一環として、定款・就業規則の変更がなされ、定年制についてこれまでの60歳定年より65歳定年に変更、また、生活環境の多様化に伴い、フレキシブルタイムの導入がなされました。これは、ワークライフバランスの体制を整備し、職員一人ひとりのキャリアデザインの構築を支援するものであります。

部門総括

重点取組事項	1. 生活支援課	2. 地域支援課
(I) 利用者サービスの充実	<ul style="list-style-type: none">○親切丁寧に関わることで、個々の支援に取り組むことができた。(生活相談員)○ケース担当と多職種(ナース・相談員・栄養士・理学療法士など)で、生活や心身の状況を把握しながら、ニーズやデマンドを包括的にアセスメントすることに努め、安心して生活していただくことに努めた。(施設ケアマネージャー)○新規のイベント食を実施することができた。(栄養)○ケアカンファレンスや記録の共有により、本人のニーズを優先できるよう努めた。(医務)○ご利用者的人権を尊重し、その方らしい生活が送れるよう努めた。(一般棟:さざんか・コスモス)○ご利用者に寄り添い、声を拾い目配りをして日々生活していく中での不安を取り除くよう努めた。(認知棟:陽だまり)○利用者個々の尊厳を大切にし、個々に意識	<ul style="list-style-type: none">○ご利用者・ご家族の気持ちに寄り添い支援した結果、支援内容やケアマネージャーに対するクレームが無く支援することができた。(居宅介護支援)○介護予防の観点を意識し、自立を促す介助を心がけ実施した。(短期入所)○身体状況や体調に合わせた助言を行うことにより、生活意欲を高めることができた。(訪問介護)○連絡ノートと送迎時のご家族とのコミュニケーションを通じ、ご家族との情報交換を密に行えるように心掛けた。(通所介護)○利用者の主体性と個性に合わせたサポートを行い、在宅生活の支援ができた。(えまーぶる通所)○利用者の個別性、意向を尊重したケアプランの作成に努めた。(えまーぶる居宅)○ご利用者との共生を原点に配食サービスを展開し、感謝の言葉を頂きながら無

	<p>をもって行動することができ、その人らしい利用者主体のケアの実践に努めた。(ユニテ：さくら・ひまわり)</p>	<p>事終了しました。(配食サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門家としての提案を行い、利用者本人に寄り添った支援を実践できた。(ケアプランセンター) ○「親切に」をモットーに利用者の相談に真摯に向き合い、迅速に対応してきました。(狹野地域包括支援センター)
(II) 地域福祉へのサービス展開	<ul style="list-style-type: none"> ○突発的な相談や見学にも迅速に対応しました。(生活相談員) ○各部署の支援内容に沿い、実施に協力できました。(施設ケアマネージャー) ○『厚愛地区食形態マップ』事業に継続して参加できた。(栄養) ○特養としての社会的役割を理解し、看取りの重要性を実感しながら行うことができた。(医務) ○各フロアで2回の外出と地域の行事に1回参加し、地域社会との交流を図った。(一般棟：さざんか・コスモス) ○厚木駅伝に参加。(認知棟：陽だまり) ○年4回の地域推進会議にてユニテの取り組みを伝え、地域住民の方から地域の情報を得ることができた。(ユニテ：さくら・ひまわり) 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人暮らしのご利用者の情報を地域包括支援センターと共有し、有事の際に情報連携できるよう努めた。(居宅介護支援) ○地域の来訪者に対して丁寧な対応をすることで信頼感が高まった。(短期入所) ○心身に不安を抱えて生活している利用者の生活状況を地域包括支援センターと情報共有することができた。(訪問介護) ○地域の作品出品イベントに参加し、地域の方々に活動を紹介することができた(通所介護) ○ボランティア・民生委員等との交流会に参加し、意見交換をすることができた。(えまーふる通所) ○利用者が培ってきた近隣との関係や民生委員との繋がりを活用した支援を行うことができた。(えまーふる居宅) ○真心こもった食事を提供し、ご利用者の皆様方から感謝の言葉をいただいた。(配食サービス) ○地域包括支援センターからの求めに応じ、協働することができた。(ケアプランセンター) ○地域包括ケア社会構築のため、第2回協議体「狹野生活支援協議会」を5回開催しました。(狹野地域包括支援センター)
(III) 職員の資質向上と魅力ある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○クレーム対応の研修に参加し、相談業務の向上に努めました。(生活相談員) ○更新研修等以外の外部研修への参加がなか 	<ul style="list-style-type: none"> ○休みやすい環境を整え、業務量の調整をした結果、離職率ゼロを達成することができた。(居宅介護支援)

	<p>ったため、次年度の課題としたい。(施設ケアマネージャー)</p> <p>○敬和会栄養部門合同研修を3ヶ月毎に実施することができた。(栄養)</p> <p>○施設内研修と外部研修により、内容について意見交換し理解を深めるとともに、施設看護師としての役割と方向性を共有していくことができた。(医務)</p> <p>○研修参加を呼びかけ、内部研修については、各職員1回以上の参加ができた。(一般棟：さざんか・コスモス)</p> <p>○フロア内での介護の基礎的な部分でユニット会議内でミニ勉強会を行った。(認知棟：陽だまり)</p> <p>○施設内研修や外部研修へ参加することで、新たな知識や専門性の向上に努めることができた。(ユニテ：さくら・ひまわり)</p>	<p>○施設内外研修に参加し、スキルアップを図ることができた。(短期入所)</p> <p>○定例研修(ヘルパー会議等)を行い、統一した質の高いサービスを提供することができた。(訪問介護)</p> <p>○看護職、介護職、相談員が参加し、情報交換等を行い、資質の向上に努めた。(通所介護)</p> <p>○職員会議で、各専門職からの情報を共有することができた。(えまーぶる通所)</p> <p>○多職種の研修会に参加し、それぞれの役割を学び、相互理解に努めた。(えまーぶる居宅)</p> <p>○職員相互のコミュニケーションが図られご利用者とのトラブルも皆無で終了することができた。(配食サービス)</p> <p>○研修参加と自事業所内での事例検討会の実施ができた。(ケアプランセンター)</p> <p>○利用者のより良い支援のため、各職員の専門性を活かしたチームケアを実践してきました。(狭野地域包括支援センター)</p>
(IV) 経営の安定の確保	<p>○業務の効率化を図りました。(生活相談員)</p> <p>○会議等資料において、コピーや配布の仕方について、無駄をなくすことに努力した。(施設ケアマネージャー)</p> <p>○食材料費に関しては、前年度より数%のコスト減で推移できた。(栄養)</p> <p>○コストの削減意識をもって、業務に取り組むことができた。(医務)</p> <p>○節電・節水を心がけ、経費節減に努めた。(一般棟：さざんか・コスモス)</p> <p>○書類、報告書等無駄な印刷を減らし、紙の使用量を減らした。(認知棟：陽だまり)</p> <p>○物品担当者を設け、消耗品の使用状況を把握し、在庫過多とならないように努めた。(ユニテ：さくら・ひまわり)</p>	<p>○メールや伝のぼの NEXT を活用することでペーパーレス化ができた。(居宅介護支援)</p> <p>○事業所間・施設内の連絡をパソコンを利用して情報の電子化ができ、ペーパーレス化に努めた。(短期入所)</p> <p>○節水・物品の節約に極力意識して行動することができた。(訪問介護)</p> <p>○物品購入は常に発注日、発注量を記録しながら行い、経費の無駄を無くすよう努めた。(通所介護)</p> <p>○各職員が、常にコスト削減の意識を持ち、実行することができた。(えまーぶる通所)</p> <p>○自転車の活用、訪問途中でのボスティング等、諸経費の節約を意識して業務を行</p>

		<p>うことができた。(えまーぶる居宅)</p> <p>○職員で配食業務を対応した結果、若干ではあるが経費削減が図られた。(配食サービス)</p> <p>○節約・節減に努めた。(ケアプランセンター)</p> <p>○経費の節減に努めるよう意識を高めた。(萩野地域包括支援センター)</p>
--	--	--

重点取組事項	3. 管財課(詳細は後述)
(I) ライフライン安定供給の構築	○10月~12月の工程で、新館全箇所及び本館主要箇所の空調機器(エアコン)のリニューアル工事を実施。
(II) 地震防災対策のマニュアル化と防火対策	○地震発生後速やかに効果的に行動できるようマニュアル委員会においてBCPを作成しました。
(III) 交通事故防止の推進	○軽微な物損事故は3件でしたが、人身事故はありませんでした。引き続き日常より職員が安全意識、交通マナーを継続できるよう教育してまいります。

主な平成30年度施設補修・改修関係内訳

番号	補修項目	場所	番号	補修項目	場所
1	丁ミストカ-2台購入	施 設	8	浄化槽ボンプ3台交換	施 設
2	空調機3台交換	厨 房	9	浄化槽水中ポンプ2台交換	施 設
3	マルチエアコン交換	コスモス	10	介護リフト2台購入	一 般 棟
4	汚物処理機修理	一 般 棟	11	汚物処理機修理	陽だまり
5	ボイラー修理	新 館	12	大型加湿空気清浄器購入	陽だまり
6	壁紙張り替え	陽だまり	13	空調機更新工事	本 館 新 館
7	テレビ2台購入	一 般 棟	14	ナースコール更新工事	本 館

重点取組事項	4. 総務課（詳細は後述）
(I) 利用者サービスの充実	○ご利用者的事情を常に第一に考え、快適な生活が送れるよう、介護職員の黒子となってサポートしてまいりました。
(II) 地域福祉へのサービス展開	○ご利用者並びにご家族から学ぶ姿勢を大切に取り組んでまいりました。
(III) 職員の資質向上と魅力ある職場づくり	○年3回の施設内研修会及び多くの外部研修に参加し、職員のスキルアップが図られた。
(IV) 経営の安定の確保	○人財確保が経営の安定に繋がります。その点で次年度への大きな課題となりました。

重点取組事項	5. ケアハウスえがりて
(I) 利用者サービスの充実	○生活ニーズや希望を尊重しながら、ご入居者の立場に立ったサービスを提供することができた。
(II) 地域福祉へのサービス展開	○地域包括支援センターや医療機関、各事業所等との連携を図ることができた。
(III) 職員の資質向上と魅力ある職場づくり	○施設内、外の研修に参加し、自己研鑽に努めた。 ○部署内の会議等で、意見交換や情報の共有に努めた。
(IV) 経営の安定の確保	○利用率が5月に96.7%だったが、退去が続き2月には70.0%まで落ち込んだ。今年度は平均84.7%の利用率であり、前年度とあまり変化が無かった。 健康管理を含め、余暇活動の充実や生き甲斐活動など、暮らししが活性化するような支援に努めた。

【部門別事業報告】

1. 生活支援課

事業総括

施設運営においての目標は、ご利用者の方々に対し可能な限り充実した質の高いサービス提供を行うことあります。即ち、生活の質の向上、生き甲斐のもてる生活が出来ることを目指すため、個々に合ったケアプランを作成し、評価を行い日々の支援に取り組んでまいりました。

今年度は介護スタッフの退職があり、人員不足になる時期がありました。派遣スタッフや非常勤職員等を増やし、利用者のケアを行ってきました。

職員間では、コミュニケーション不足等が見られ、チームワークの重要性を改めて感じました。今後は、職員一人ひとりに合わせた教育を段階的に実践していく必要があります。

日々の関わりを大切にすることで、ご利用者やご家族との信頼関係を構築し、多くのご利用者の看取りケアを実施することができました。

危機管理体制の強化に向け、職員間で情報の共有を密に行い、事故の未然防止に努めてまいりました。

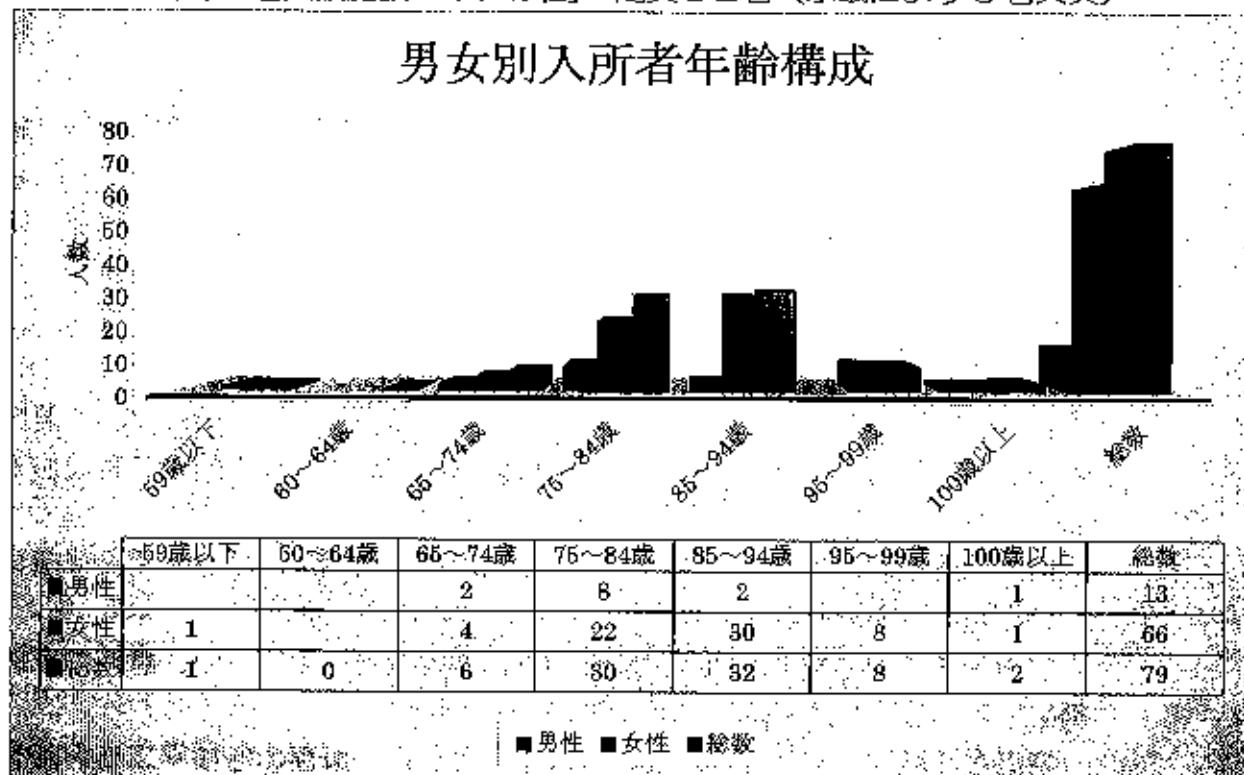
特に今年度は、マニュアル委員会が中心となり、既存の各種マニュアルを現状に合わせて見直しを行い、夜勤者の災害連絡訓練を2週間に及び実施し、マニュアルに沿った災害時における確認作業が行われました。

① 入所者諸状況（平成31年3月31日現在）

1) 男女別入所者年齢構成

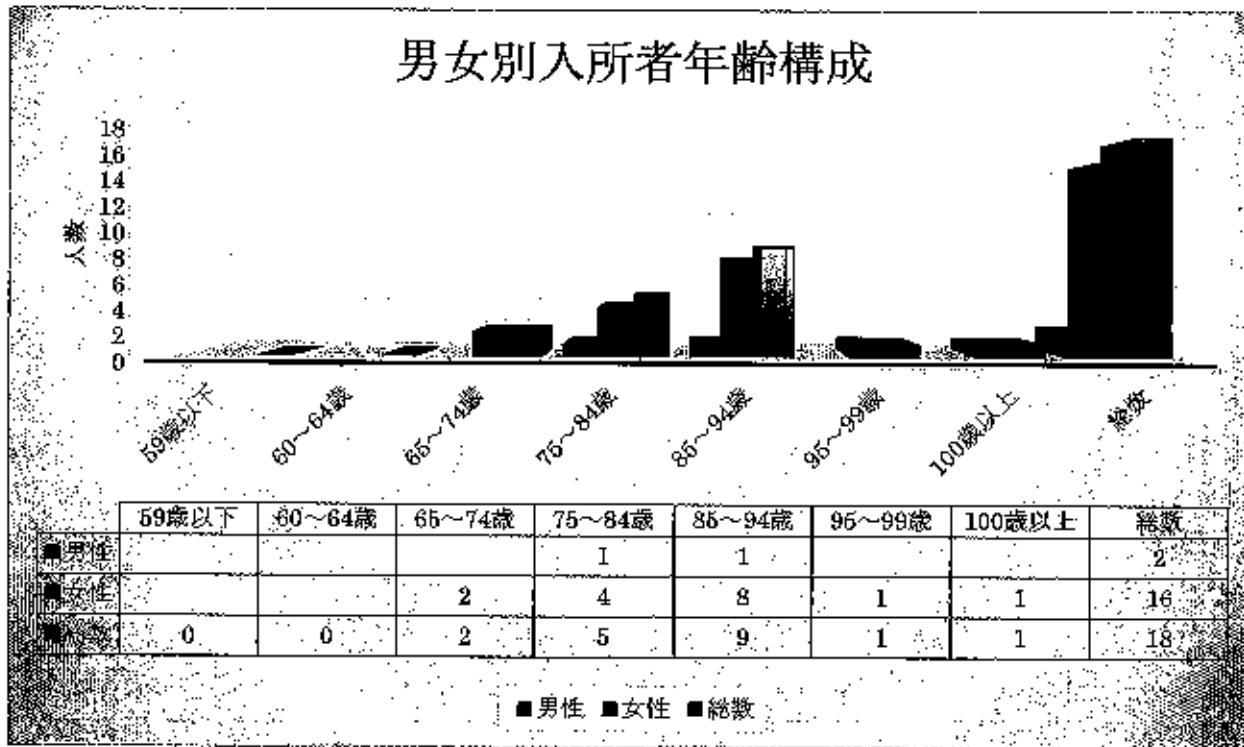
[高齢者生活支援施設 けいわ荘] 定員82名（永眠により3名欠員）

男女別入所者年齢構成



[特別養護老人ホーム ユニテ けいわ] 定員18名

男女別入所者年齢構成



2) 平均在所期間

3) 平均年齢、最高・最低年齢

(高齢者生活支援施設 けいわ荘)

平均在所期間	
男性	2年3ヶ月
女性	3年2ヶ月
平均	2年8ヶ月

	入所者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	13名	80.1歳	100歳	65歳
女性	66名	85.6歳	100歳	52歳
計	79名	83.9歳		

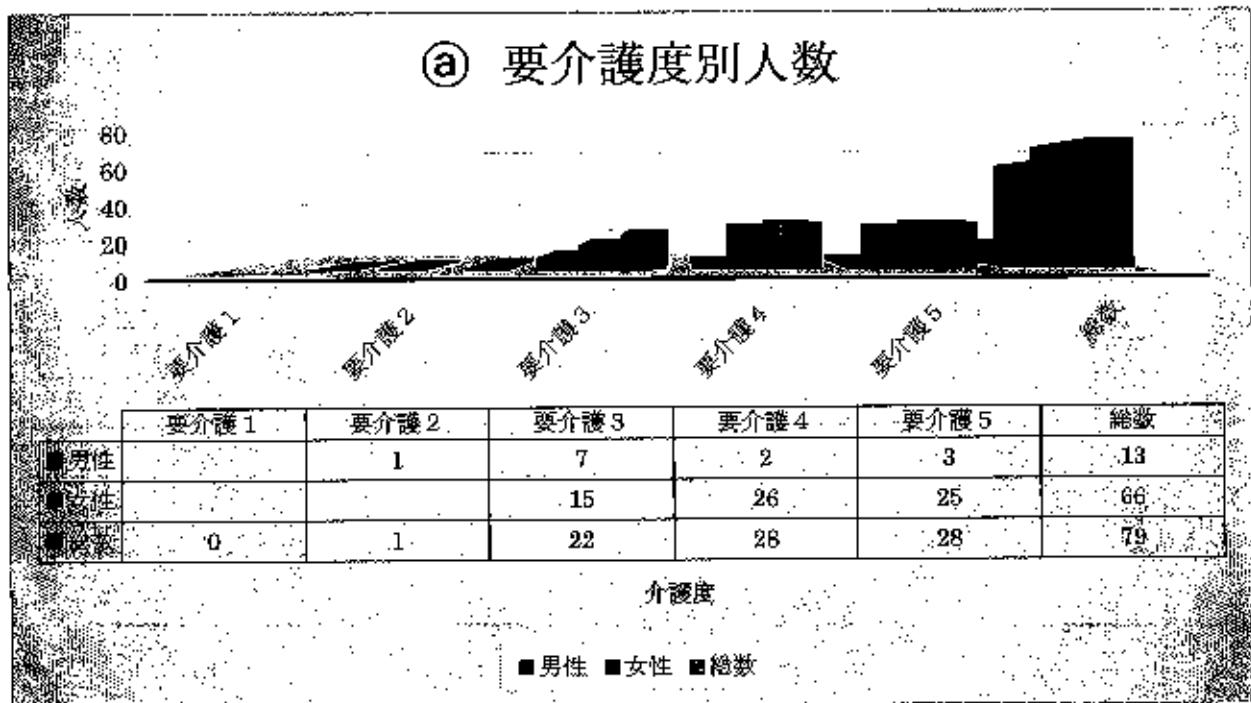
(特別養護老人ホーム ユニテ けいわ)

平均在所期間	
男性	2年6ヶ月
女性	2年5ヶ月
平均	2年6ヶ月

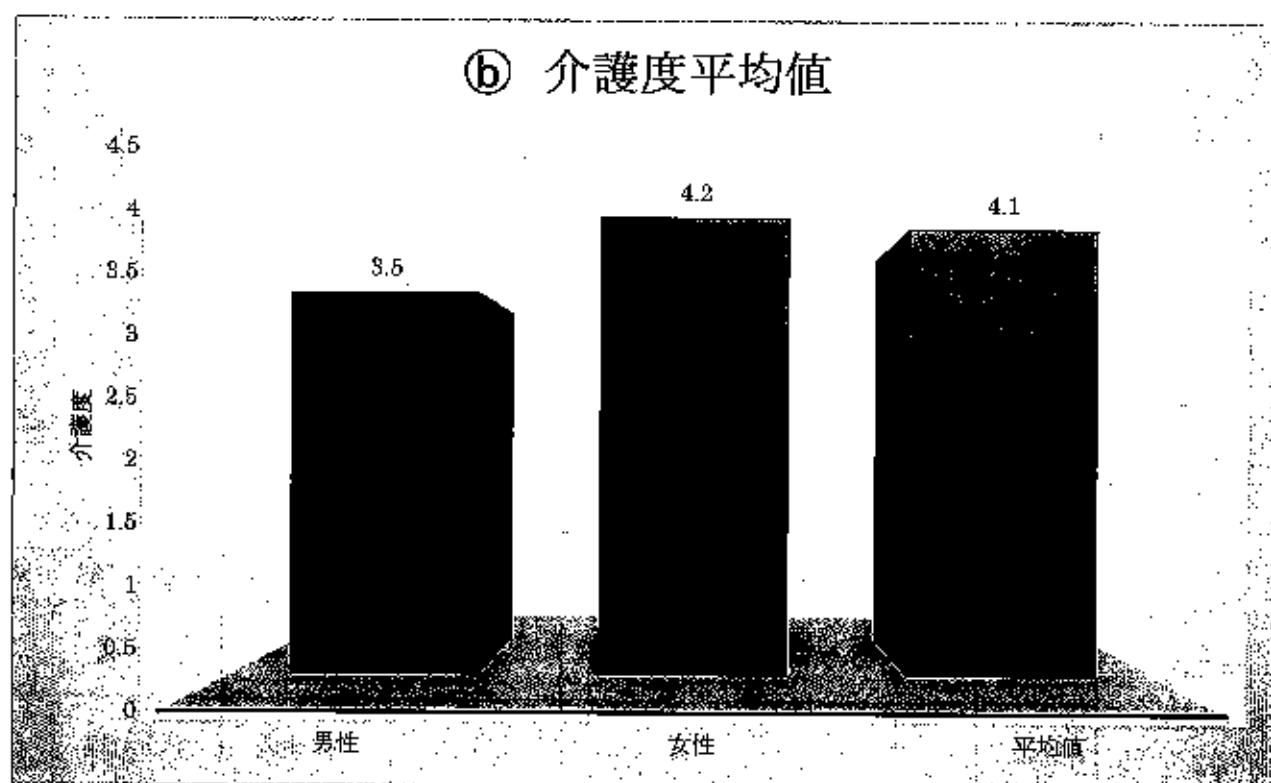
	入所者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	2名	88.0歳	94歳	82歳
女性	16名	86.9歳	103歳	69歳
計	18名	87.1歳		

4) 要介護度別人数・介護度平均値

(高齢者生活支援施設 けいわ荘)

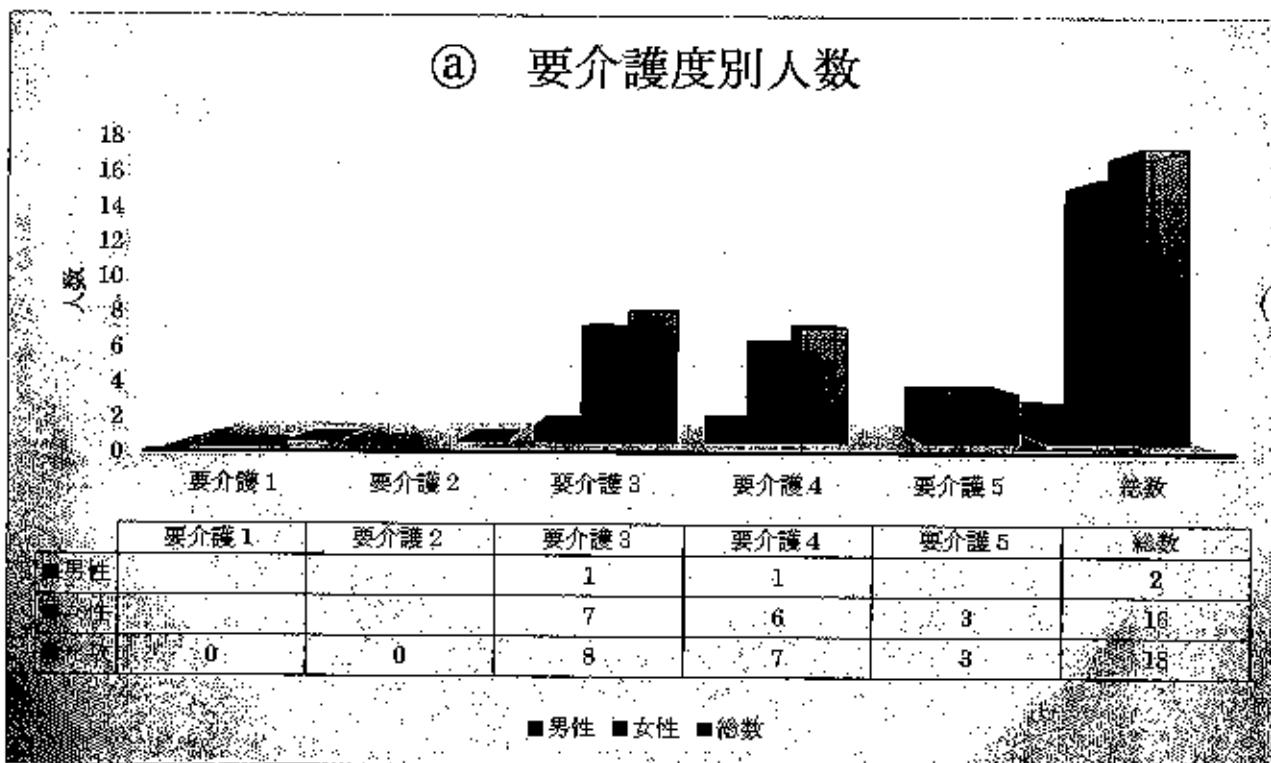


⑥ 介護度平均値

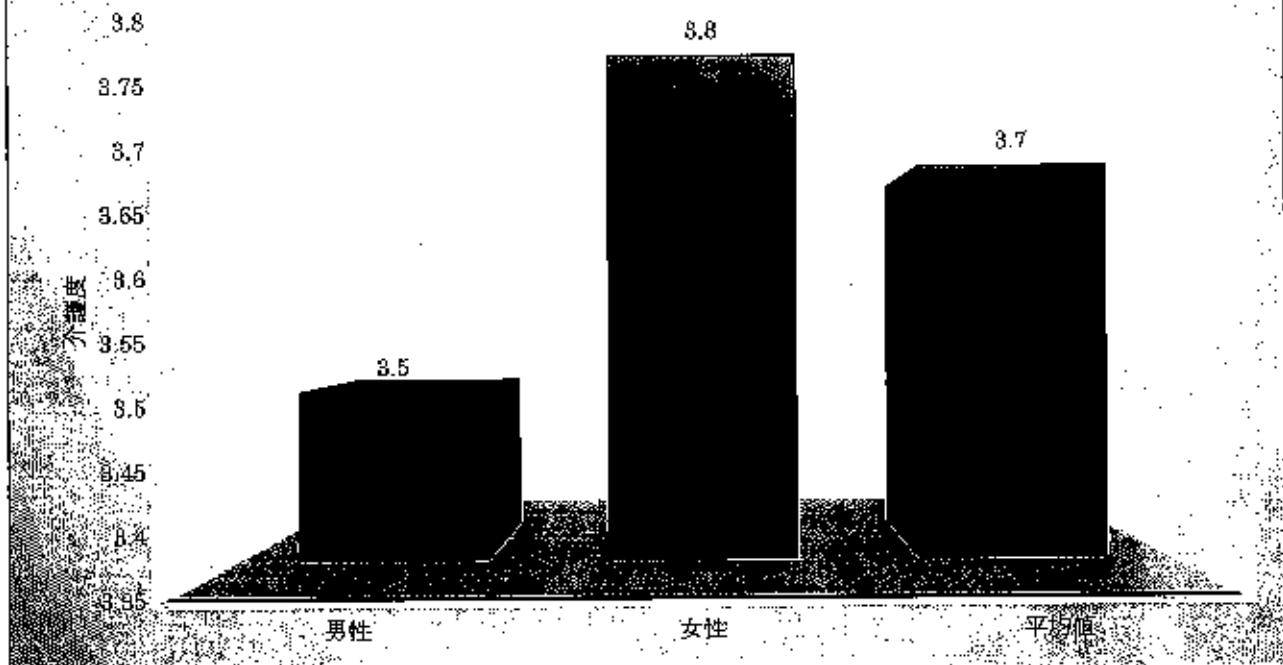


(特別養護老人ホーム ユニテ けいわ)

⑦ 要介護度別人数



(b) 介護度平均値



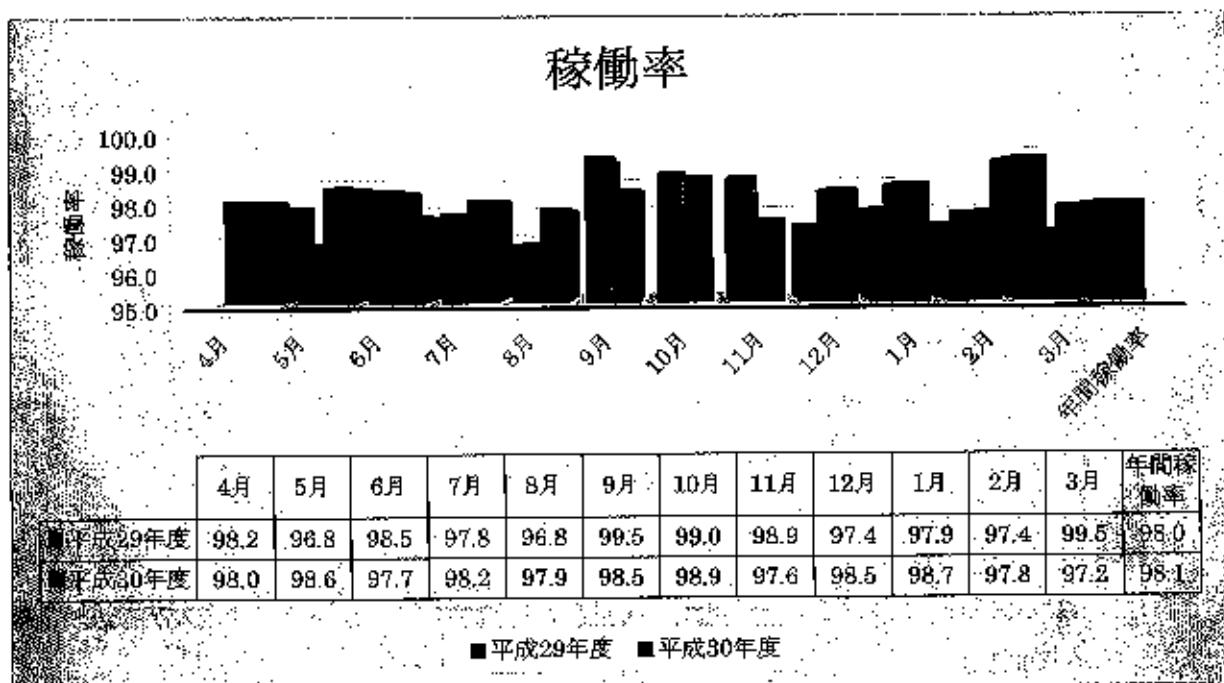
5) 年間施設稼働実績表（稼働率）

（高齢者生活支援施設 けいわ荘）定員 82 名

平成 30 年度稼働率 98.1%

平成 29 年度稼働率 98.0%

（前年度比 0.1%増）

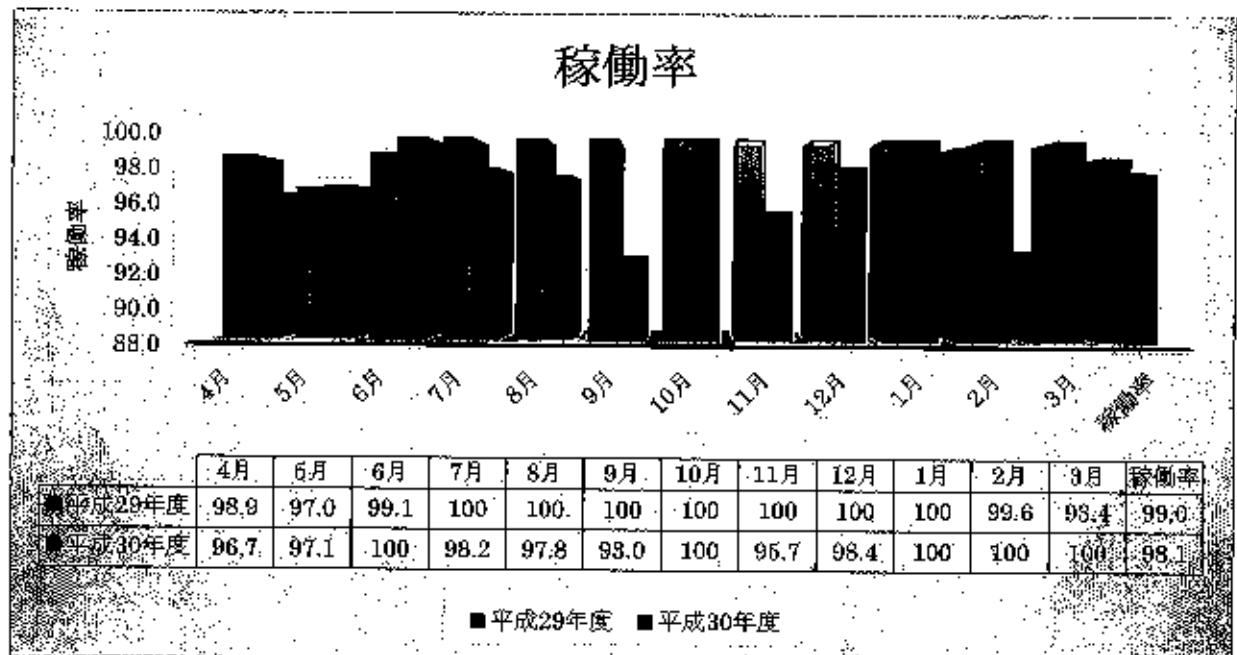


(特別養護老人ホーム ユニテ けいわ) 定員 18名

平成30年度稼働率 98.1%

平成29年度稼働率 99.0%

(前年度比 0.9%減)



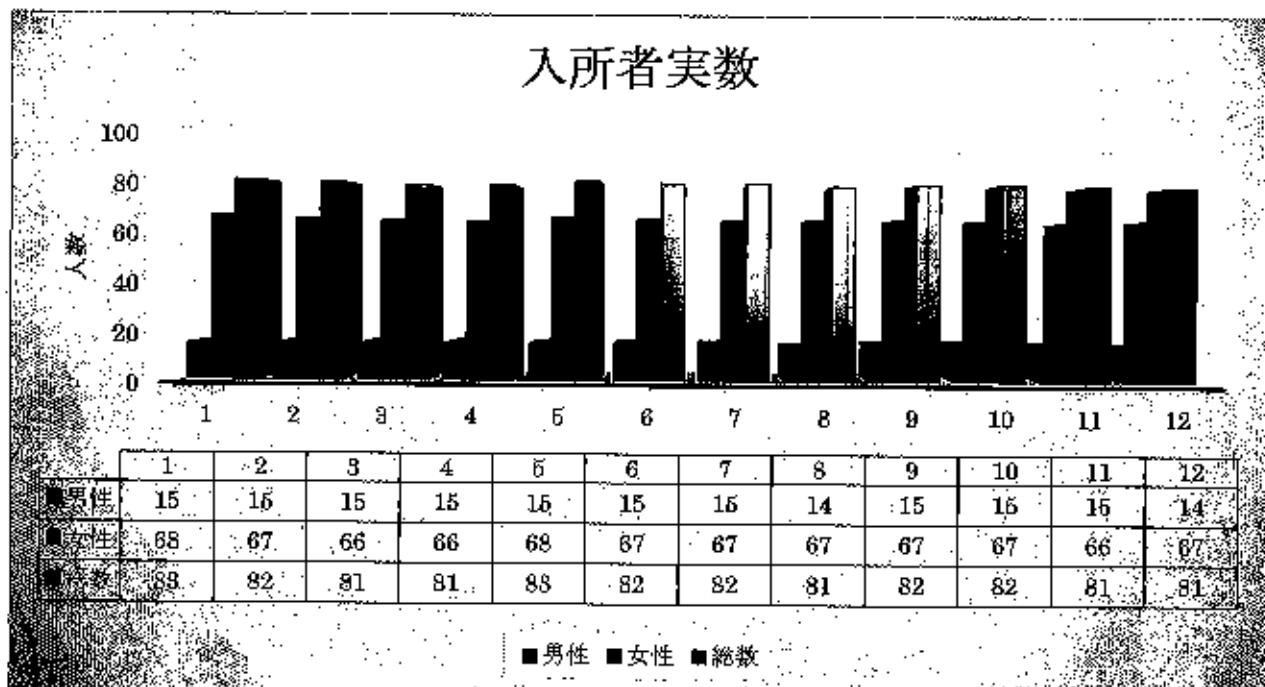
6) 年間施設稼動実績表(実数)

④ 高齢者生活支援施設 けいわ荘

平成30年度実総数 981人

平成29年度実総数 984人

(前年度比 0.3%減)



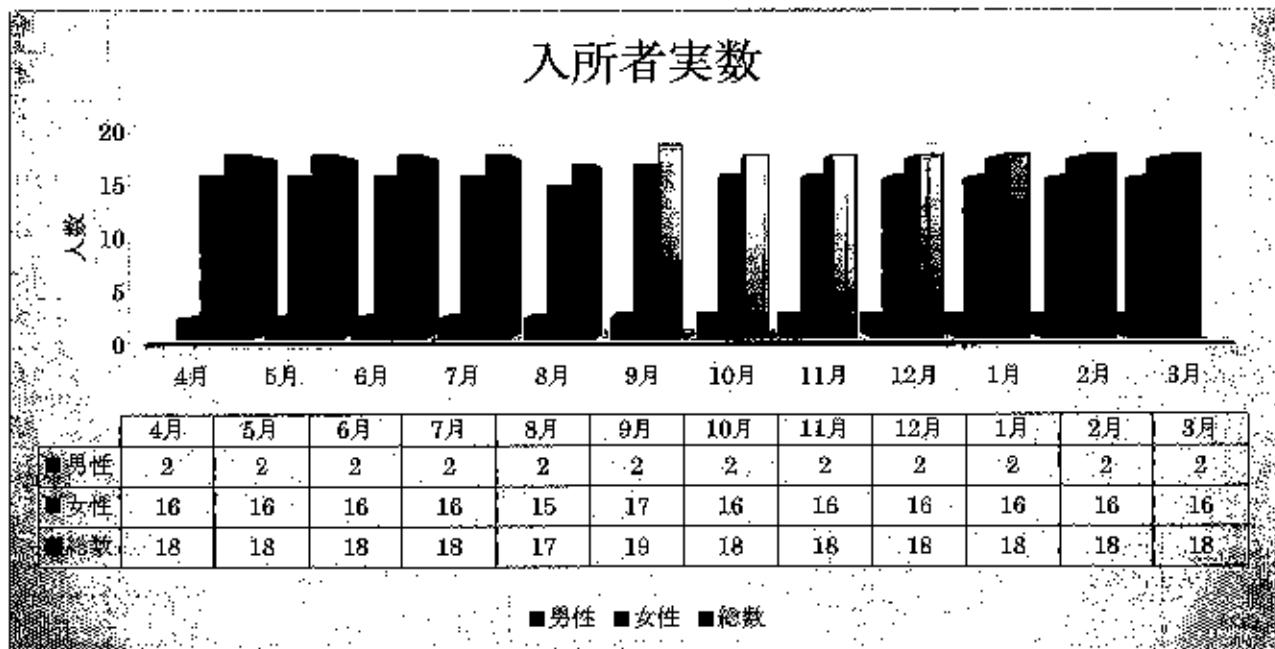
* 施設の定員は82名です。各月の合計数は、退所者数(永眠)と新規入所者数が重複加算されています。

⑮ 特別養護老人ホーム ユニテ けいわ

平成 30 年度実総数 217 人

平成 29 年度実総数 218 人

(前年度比 0.5% 減)



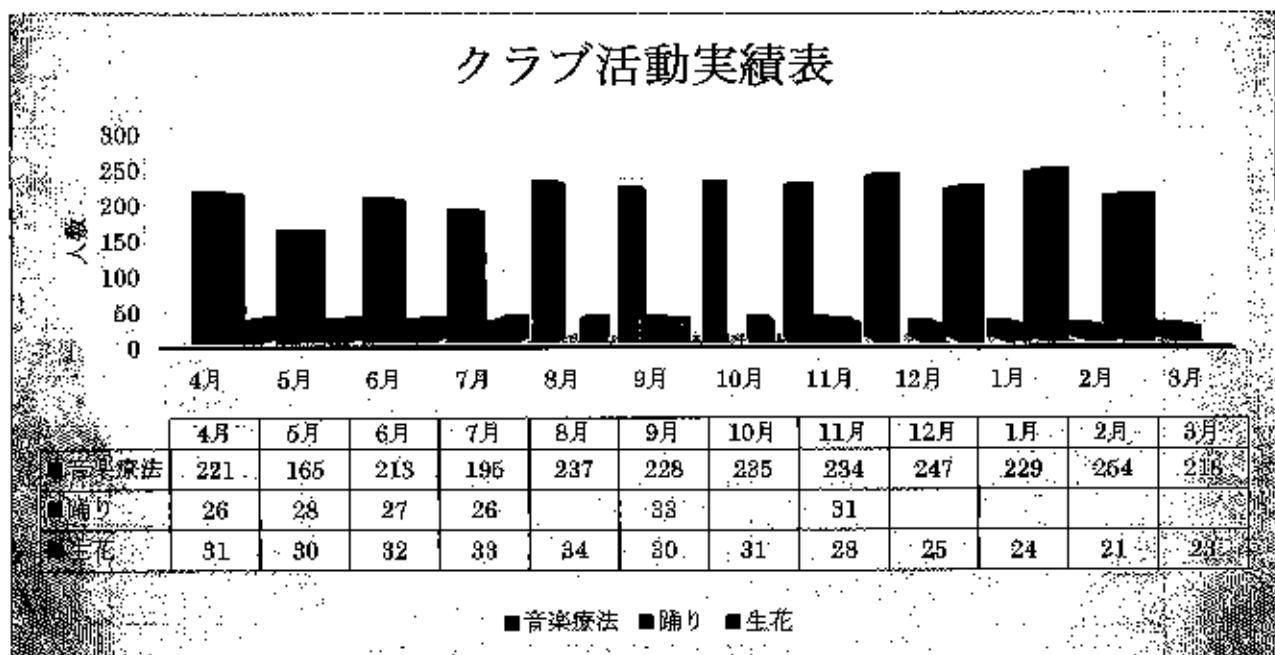
* 施設の定員は 18 名です。各月の合計数は、退所者数（永眠）と新規入所者数が重複加算されています。

ア) クラブ活動実績表

音楽療法延べ総数 2,676 人

踊り 延べ 総数 171 人

生花 延べ 総数 342 人



8) 行事報告

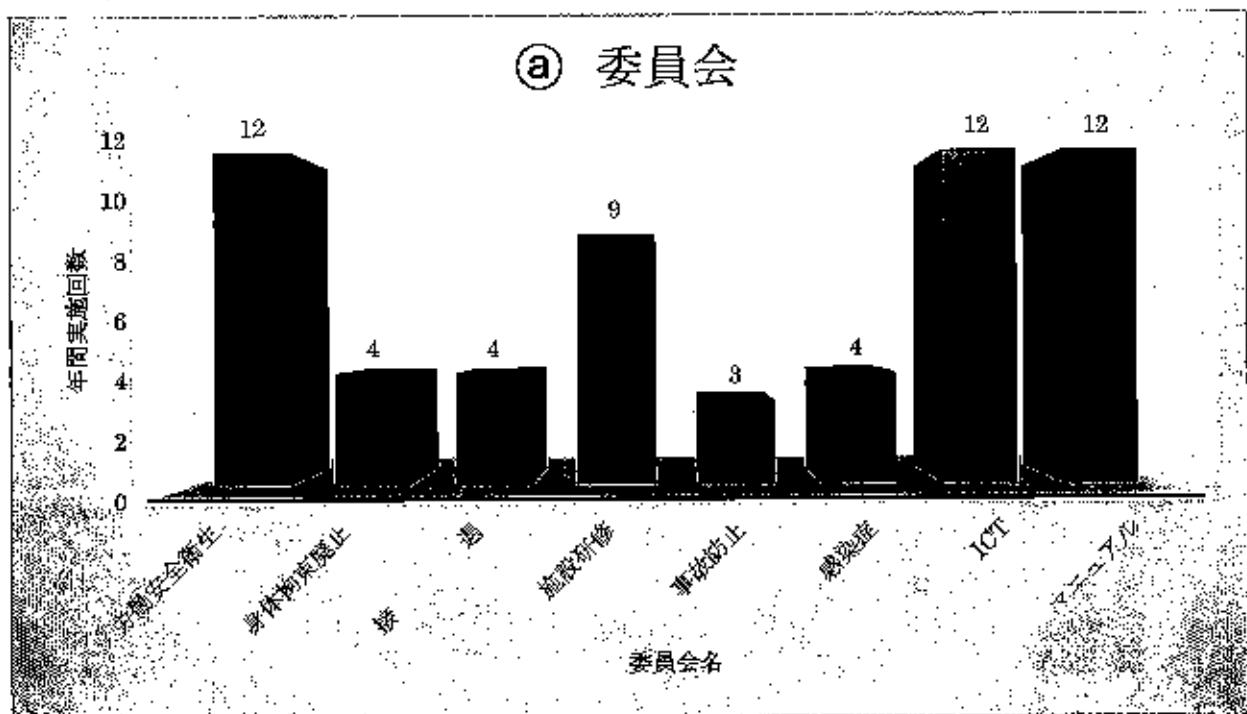
実施日	行事名	参加人数
平成30年 4月 1日	ユニテお花見(園庭)	17名
2日	入社式	3名
3日	えがりてお花見ドライブ	16名
4日	ホーム喫茶	49名
5日	生花クラブ	12名
12日	4月誕生会	誕生者 10名
20日	デザートバイキング(さざんか)	24名
24日	4月行事食	130名
28日	魚の解体ショー(コスモス)	29名
5月 7日	春の遠足(陽だまり) 萩野運動公園	6名
9日	ホーム喫茶	38名
14日	5月度誕生会	誕生者 4名
16日	生花クラブ	12名
17日	5月行事食	119名
23日	春の遠足(ユニテ) 花菜ガーデン	4名
25日	理事会	[REDACTED]
29日	春の遠足(ユニテ) 厚木つづじの丘公園	3名
31日	えがりて遠足(小田原鉢廣)	16名
31日	一般棟(コスモス) 遠足 内海イチゴ園	4名
6月 2日	萩野小学校運動会参加	2名
6日	ホーム喫茶	48名
7日	生花クラブ	13名
8日	6月行事食	133名
13日	ユニテ(さくら・ひまわり) イベント食	18名
15日	評議員会	[REDACTED]
17日	青葉まつり(第二森の里)	3名
19日	フルーツバイキング(陽だまり)	30名
20日	6月誕生会	誕生者 14名
7月 4日	ホーム喫茶	51名
5日	開所記念日	[REDACTED]
5日	7月行事食	129名
17日	7月誕生会	誕生者 10名
26日	第35回納涼祭	500名
8月 1日	ホーム喫茶	57名
6日	8月行事食	134名

17日	8月誕生会	誕生者9名
23日	陽だまり喫茶（アイスクリーム）	33名
24日	ふれあい交流会	56名
9月4日	9月誕生会	誕生者5名
5日	ホーム喫茶	46名
15日	敬老会	167名
15日	9月行事食	167名
20日	コスモス秋の遠足（新江ノ島水族館）	8名
10月3日	ホーム喫茶	50名
13日	けいわ荘大運動会	62名
15日	10月誕生会	誕生者8名
16日	風船バレー大会（ディサービス利用者）優勝	12名
22日	陽だまり喫茶（デザートバイキング）	34名
22日	秋の遠足：買い物とはま寿司（ユニテひまわり）	3名
22日	外出：買い物とマドカンド（一般棟さんか）	1名
25日	外出：オギノパンとドライブ（一般棟さんか）	2名
26日	秋の遠足：買い物と華屋与兵衛（ユニテさくら）	3名
30日	ケアハウスえがりて秋の遠足（真鶴）	
31日	鍋パーティー（一般棟コスモス）	28名
11月5日	陽だまり秋の遠足（オリーブ・オリーブ食事処サガミ）	3名
7日	ホーム喫茶	56名
12日	外食：ふじ丸（ケアハウスえがりて）	8名
14日	11月誕生会	誕生者11名
16日	11月行事食	129名
19日	秋の遠足：宮ヶ瀬ドライブ（認知棟陽だまり）	4名
21日	イベント食：握りずし（ユニテひまわり）	8名
26日	鍋パーティー（一般棟コスモス）	31名
12月3日	イベント食：握りずし（ユニテさくら）	9名
3日	宮ヶ瀬イルミネーション見学	9名
4日	宮ヶ瀬イルミネーション見学	8名
5日	ホーム喫茶	50名
13日	12月誕生会	誕生者7名
18日	外出〔買い物〕（ユニテひまわり）	1名
19日	クリスマス会（ユニテさくら・ひまわり）	18名
20日	クリスマス会（認知棟陽だまり）	32名
21日	クリスマス会（ケアハウスえがりて）	22名
22日	クリスマス会（一般棟コスモス）	30名

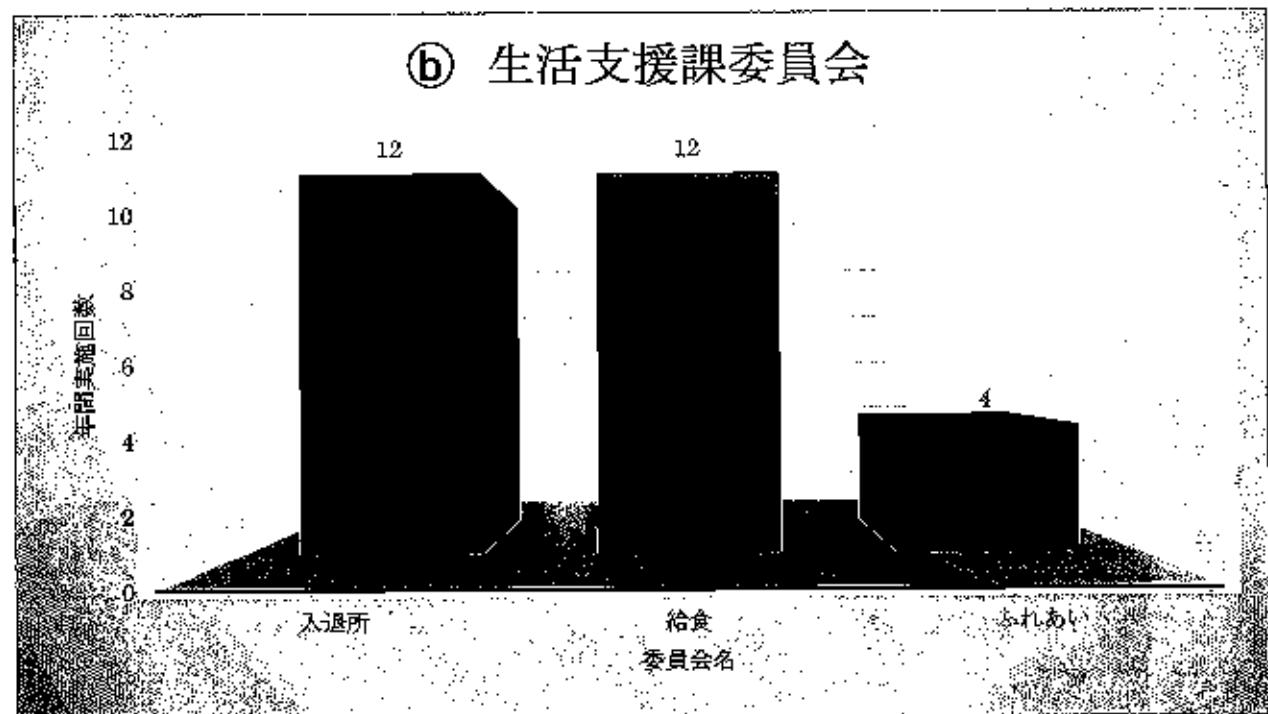
22日	クリスマス会（一般棟さざんか）	26名
25日	12月行事食	129名
27日	餅つき	131名
平成31年1月1日	お屠蘇	120名
9日	初蓋	43名
11日	どんど焼き	53名
16日	1月誕生会	誕生者 17名
20日	チョコレート作り（ケアハウスえがりて）	22名
25日	初詣【寒川神社】（ケアハウスえがりて）	14名
27日	市制施行記念第65回あつぎ駅伝競走大会出場	出場者 5名
27日	初詣【荻野神社】（陽だまり）	3名
28日	初詣【荻野神社】（ユニテさくら・ひまわり）	3名
2月3日	節分（陽だまり）	33名
3日	節分（ユニテさくら・ひまわり）	18名
6日	ホーム喫茶	56名
8日	2月誕生会	誕生者 17名
26日	チョコレートパーティー（一般棟：さざんか）	26名
3月6日	ホーム喫茶	50名
13日	ポランティア親睦会（於、アボンホール）	76名
14日	3月誕生会	誕生者 12名
17日	第33回厚木マラソン参加	出場者 5名
22日	イベント食寿司バイキング（ユニテさくら・ひまわり）	18名
28日	お花見（えがりて）	22名
30日	ちぎり絵教室（えがりて）	22名

9) 諸会議

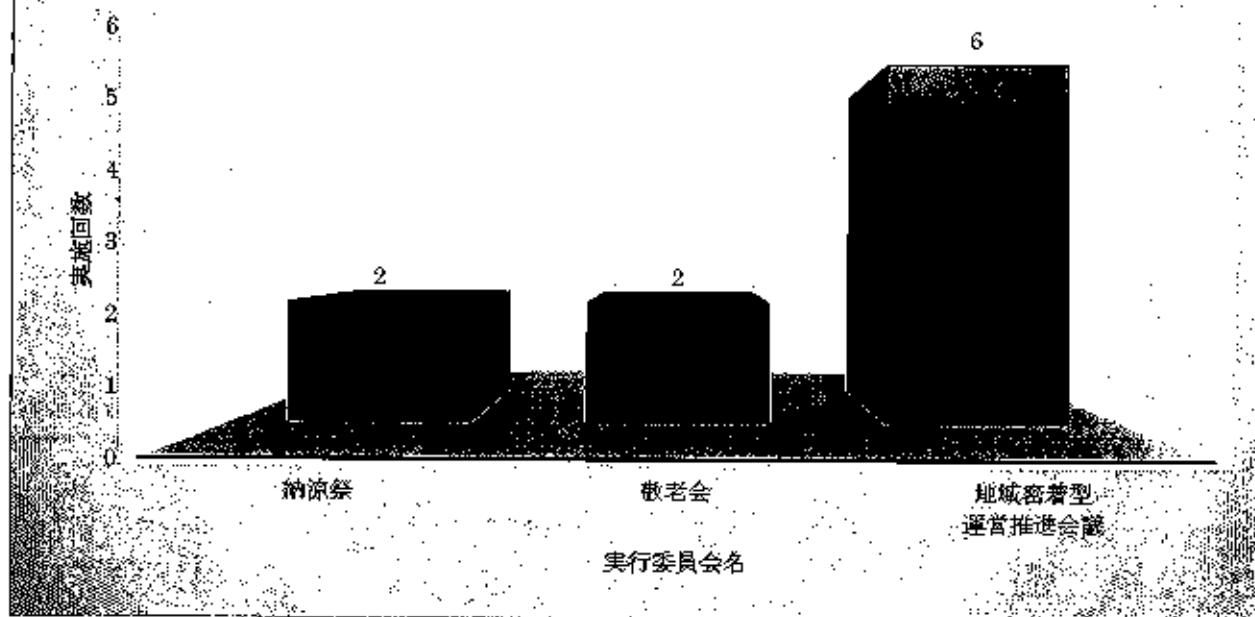
Ⓐ 委員会



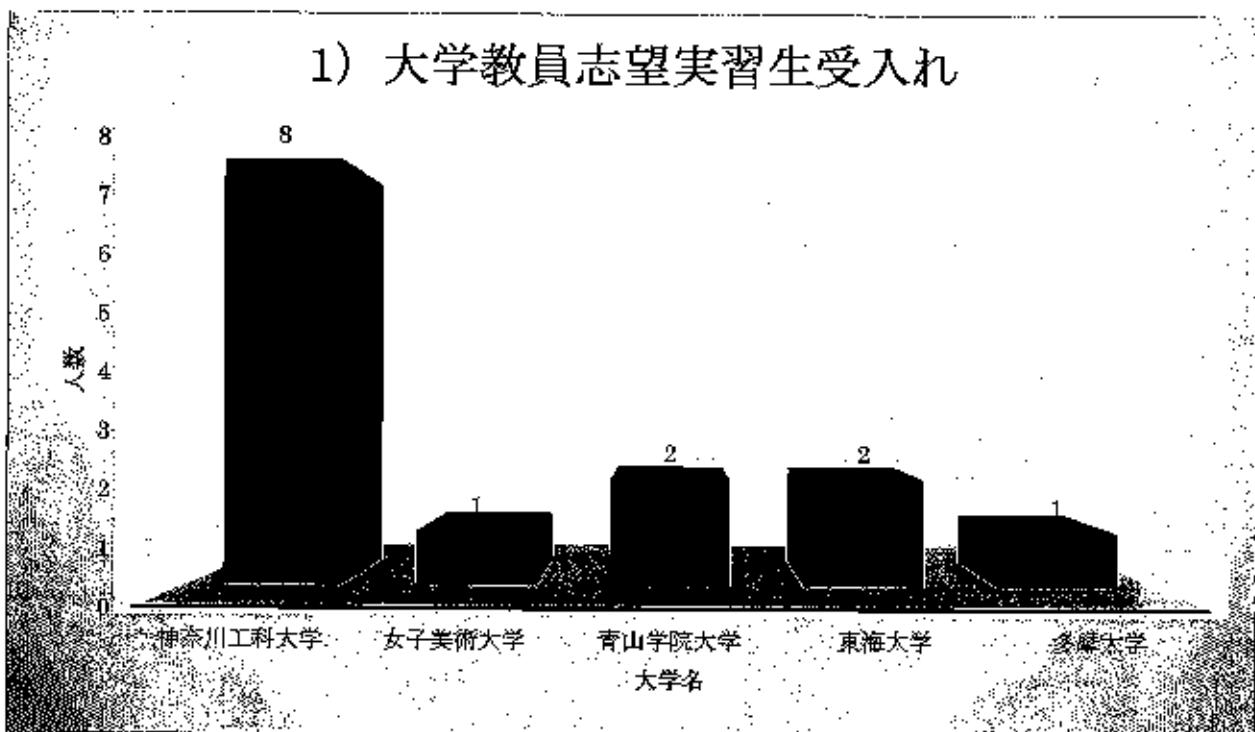
Ⓑ 生活支援課委員会



⑤ 行事実行委員会



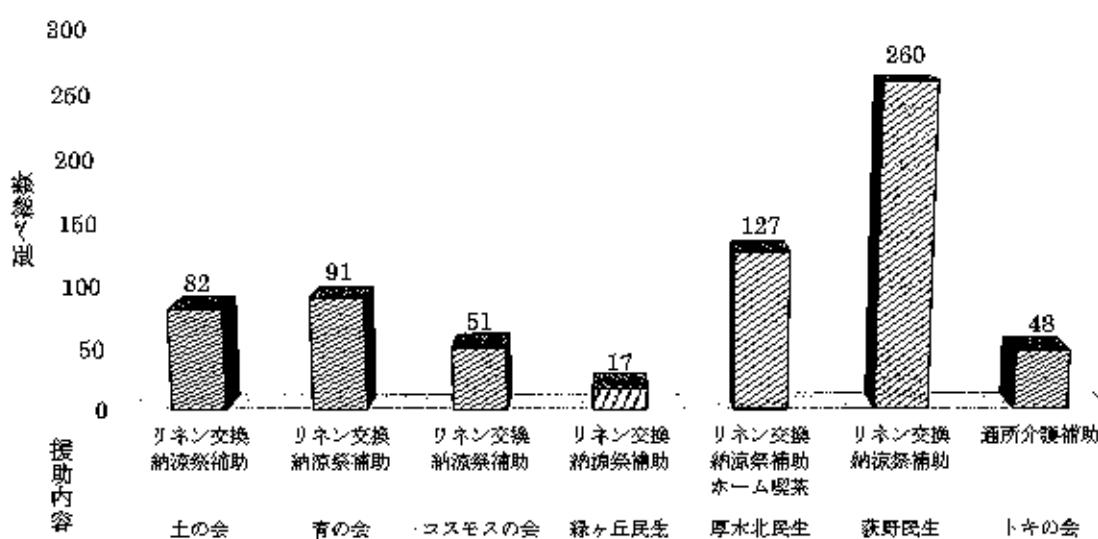
② 地域交流実績



③ボランティア実績表

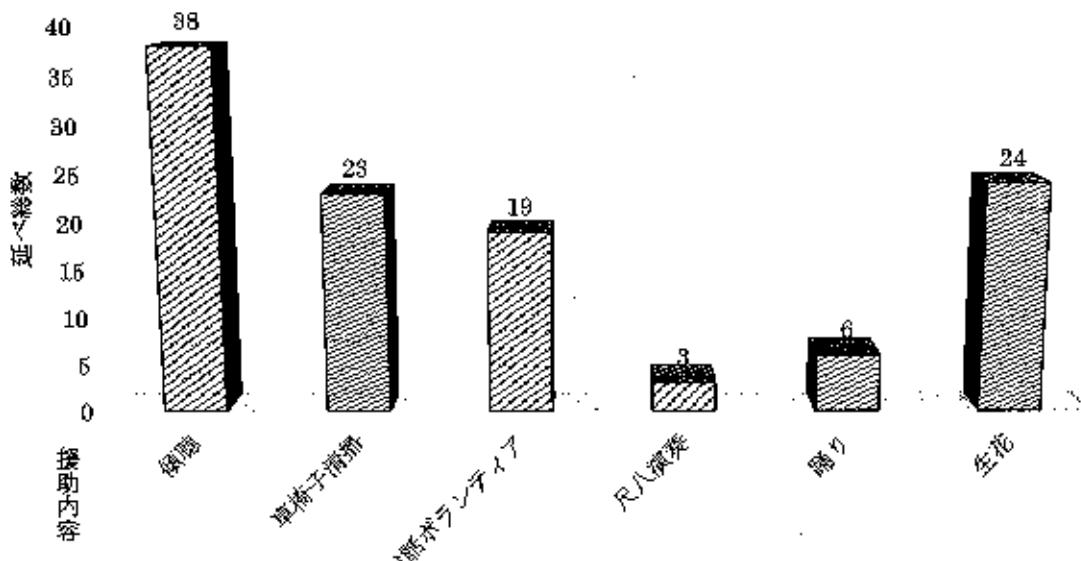
1) 団 体 (延べ 676 名)

ボランティア団体実績表

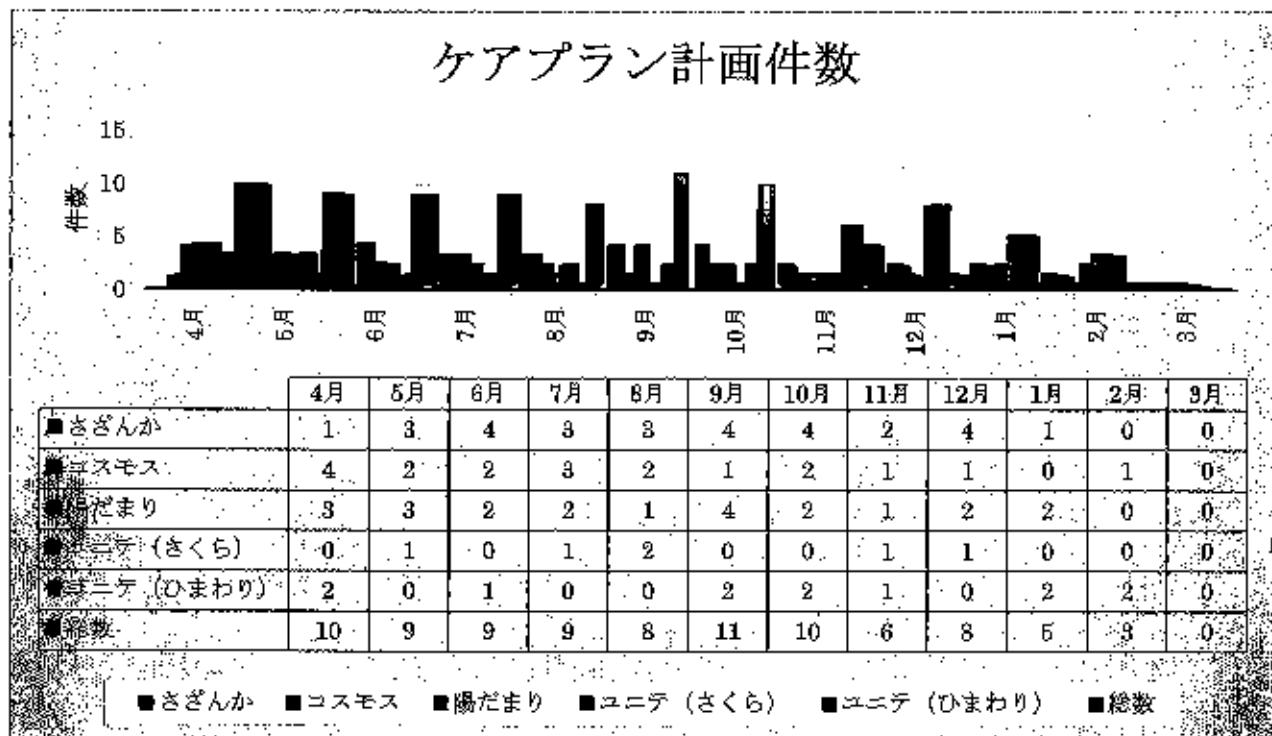


2) 個人ボランティア (延べ 113 名)

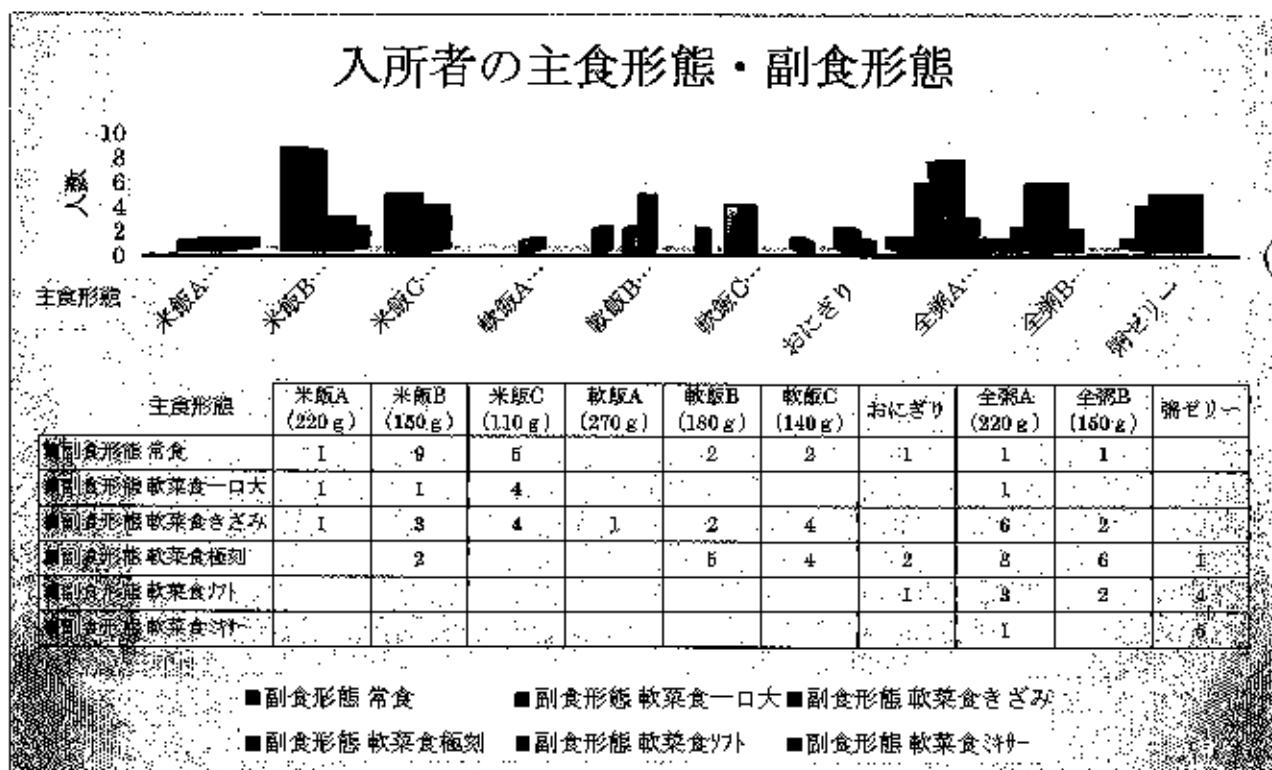
ボランティア個人



【施設ケアマネジャー】



【栄養】(入所者 97名: 欠員 3名)



*経管栄養 1名

2. 地域支援課

事業総括

ご利用者が住み慣れた地域の中で、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ、自立して健やかに安心・安全な日常生活を営むことができるよう生活環境の整備を側面から支援するとともに、生活意欲の高揚に繋がるキメ細やかな心のこもったサービスの提供に努めてまいりました。

また、利用者の意思及び人格を尊重し、常にご利用者ならびにご家族の立場に立った利用者本位のサービスの提供を心掛け、実践してまいりました。

保険者、公的機関、医療機関や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携および相互連絡を積極的に実施し、ご利用者が充実した生活を送ることができるよう、総合的サービスの提供に努めてまいりました。

地域との結びつきを重視し、地域行事への参加を積極的に行うと共に、けいわ荘の知識や技術を地域福祉に還元してまいりました。

常に、日々提供するサービスの質の評価を行い、その改善に努めてまいります。

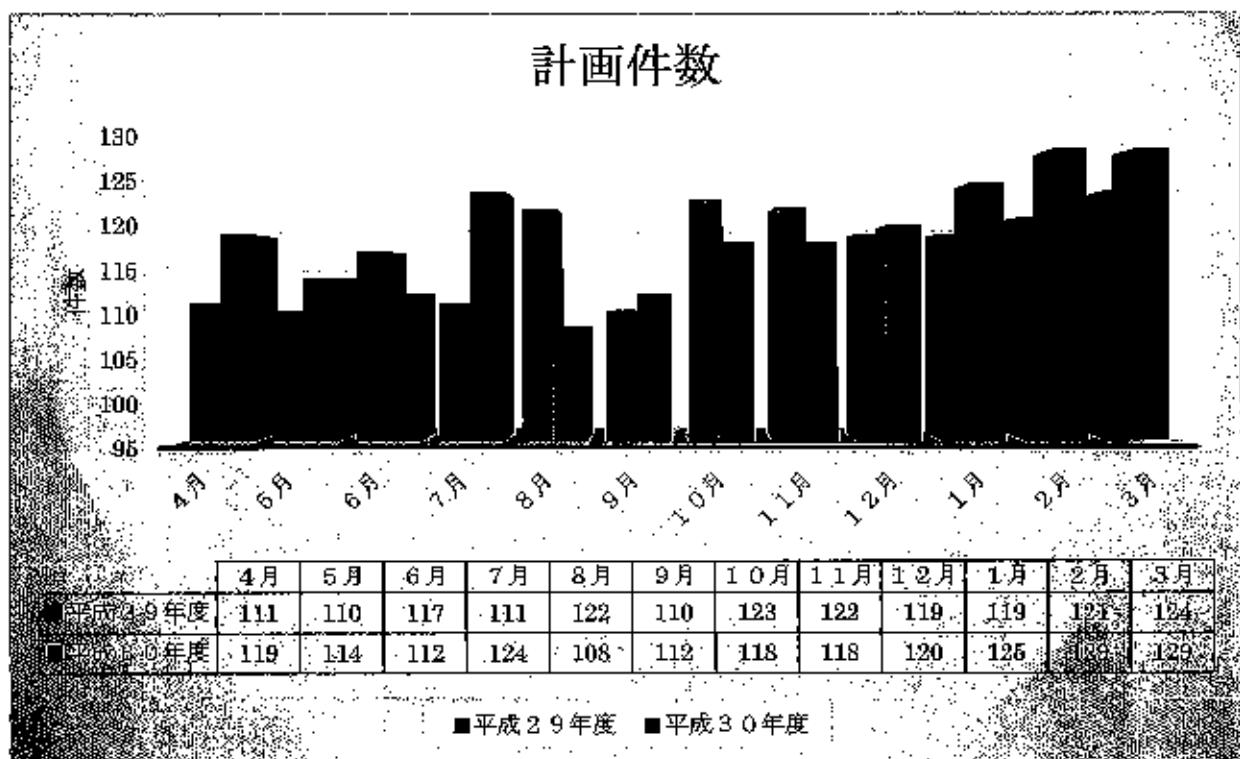
1) 居宅介護支援センターけいわ荘

I) 居宅介護支援

平成 30 年度計画延べ件数 1,428 件

平成 29 年度計画延べ件数 1,409 件

(前年度比 1.3% 増)

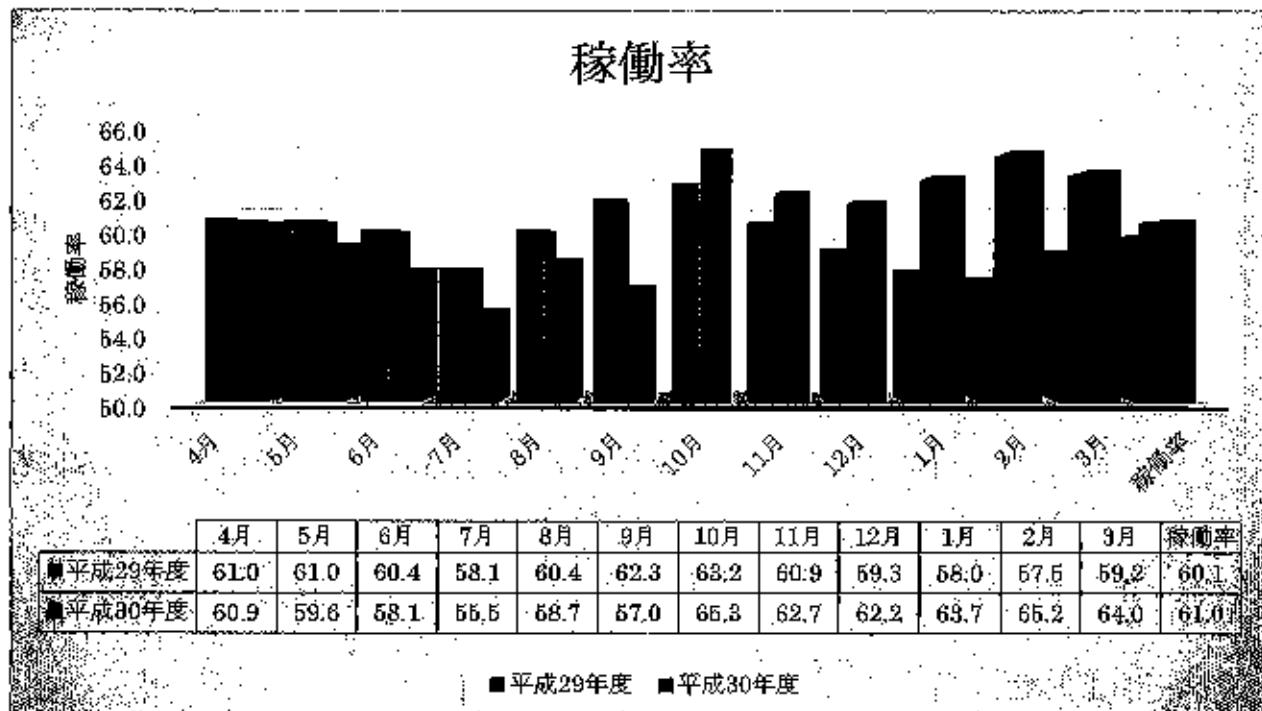


II) 通所介護（定員 45 名/日）

平成 30 年度稼働率 61.0%

平成 29 年度稼働率 60.1%

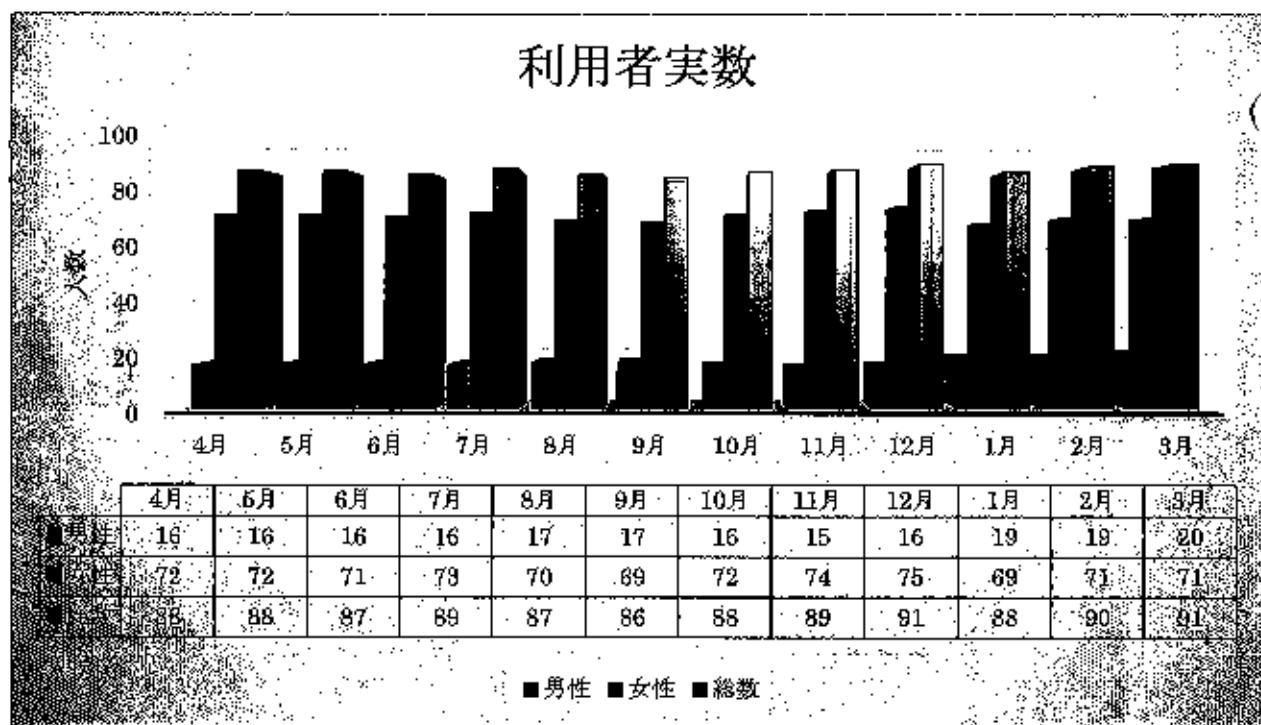
（前年度比 0.9% 増）



平成 30 年度利用者延べ実数 1,062 人

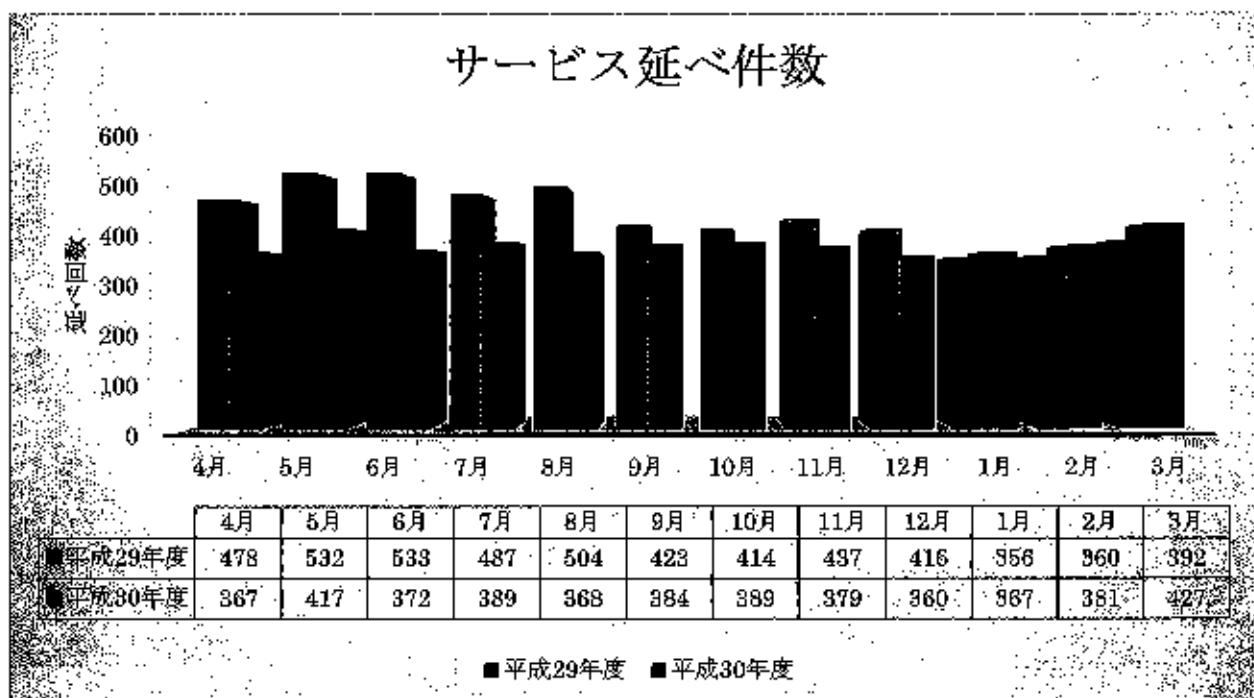
平成 29 年度利用者延べ実数 1,062 人

（前年度比 ±0%）

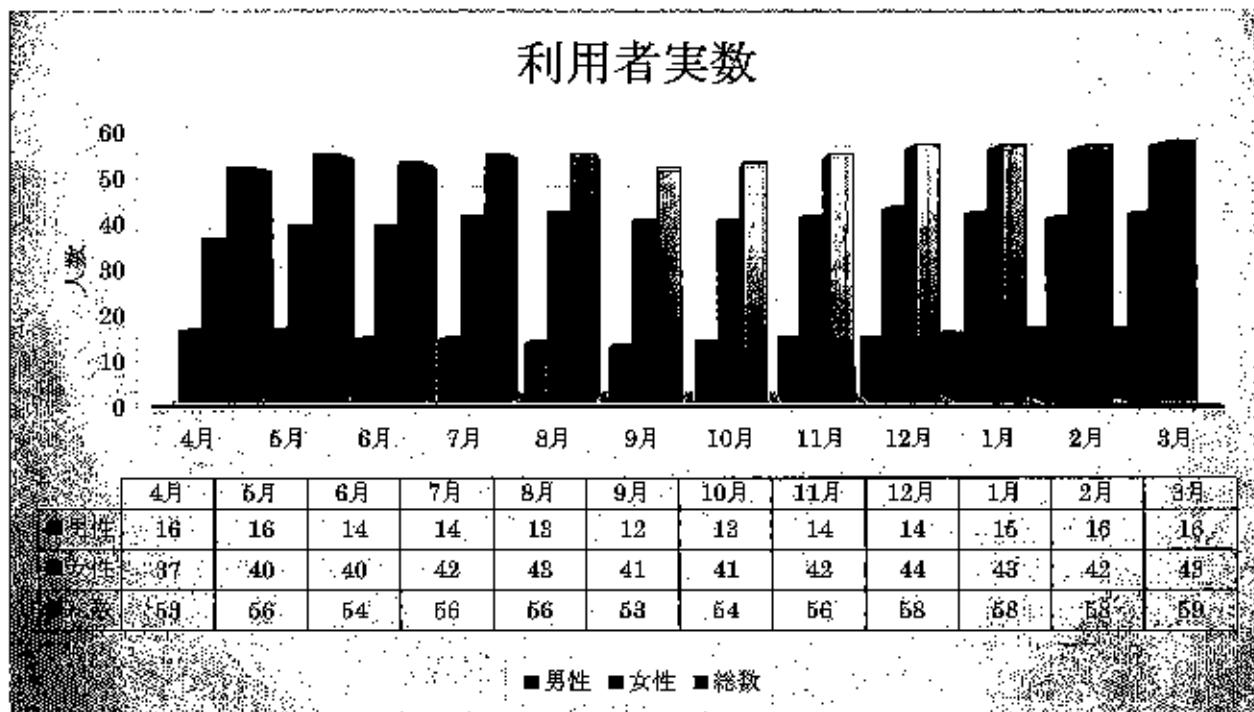


III) 訪問介護（障害福祉を含む）

平成 30 年度利用者延べ件数 4,600 人
平成 29 年度利用者延べ件数 5,332 人
(前年度比 13.7% 減)

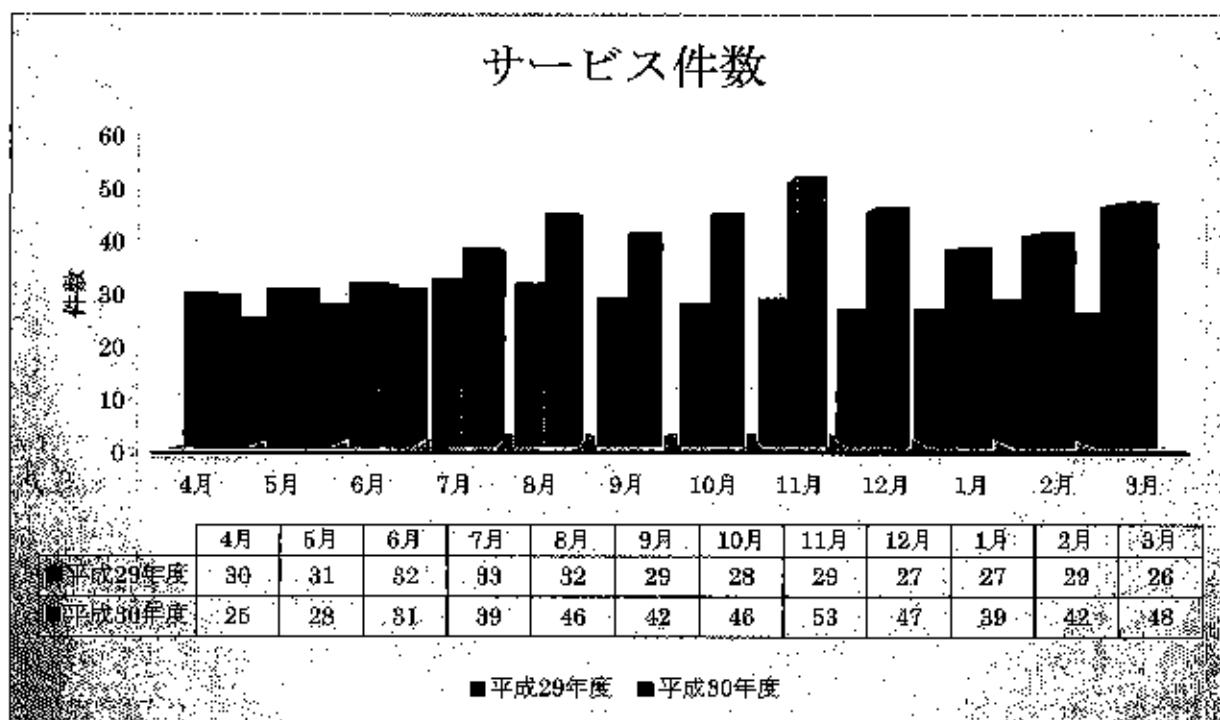


平成 30 年度利用者延べ実数 671 人
平成 29 年度利用者延べ実数 761 人
(前年度比 11.8% 減)



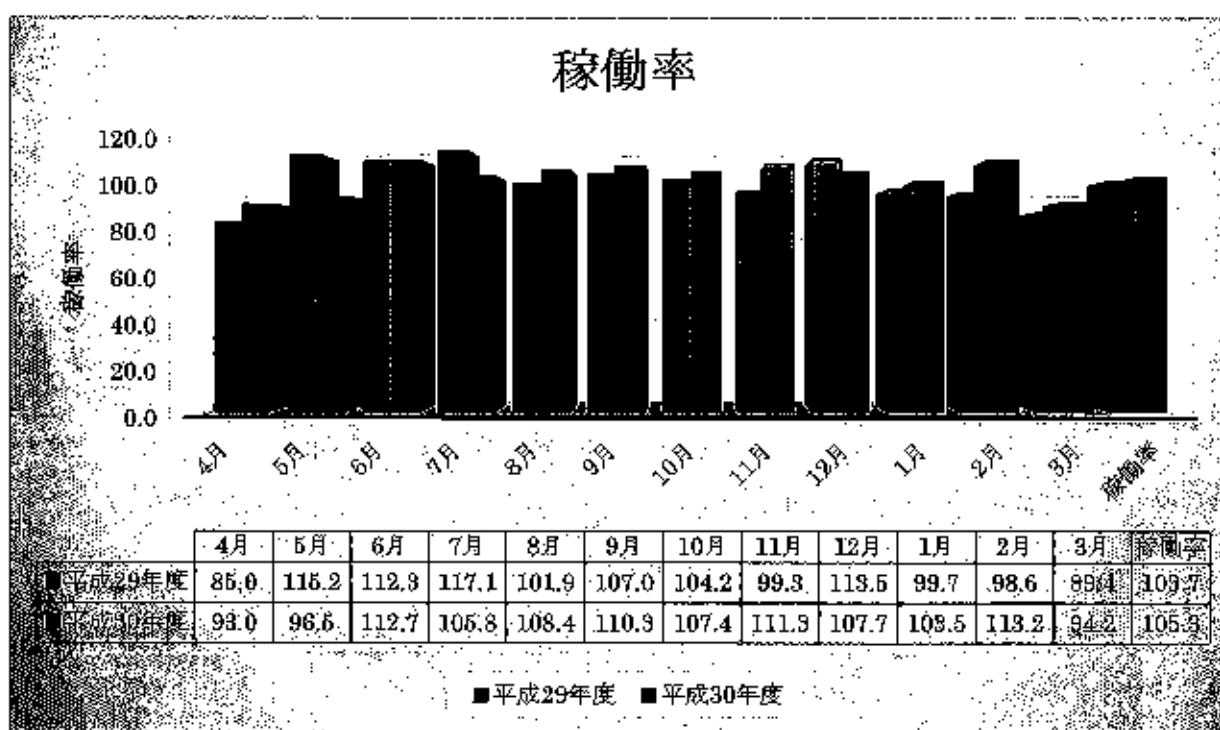
障害者自立支援実績

平成 30 年度延べ件数 486 件
平成 29 年度延べ件数 353 件
(前年度比 37.7% 増)



IV) 短期入所生活介護

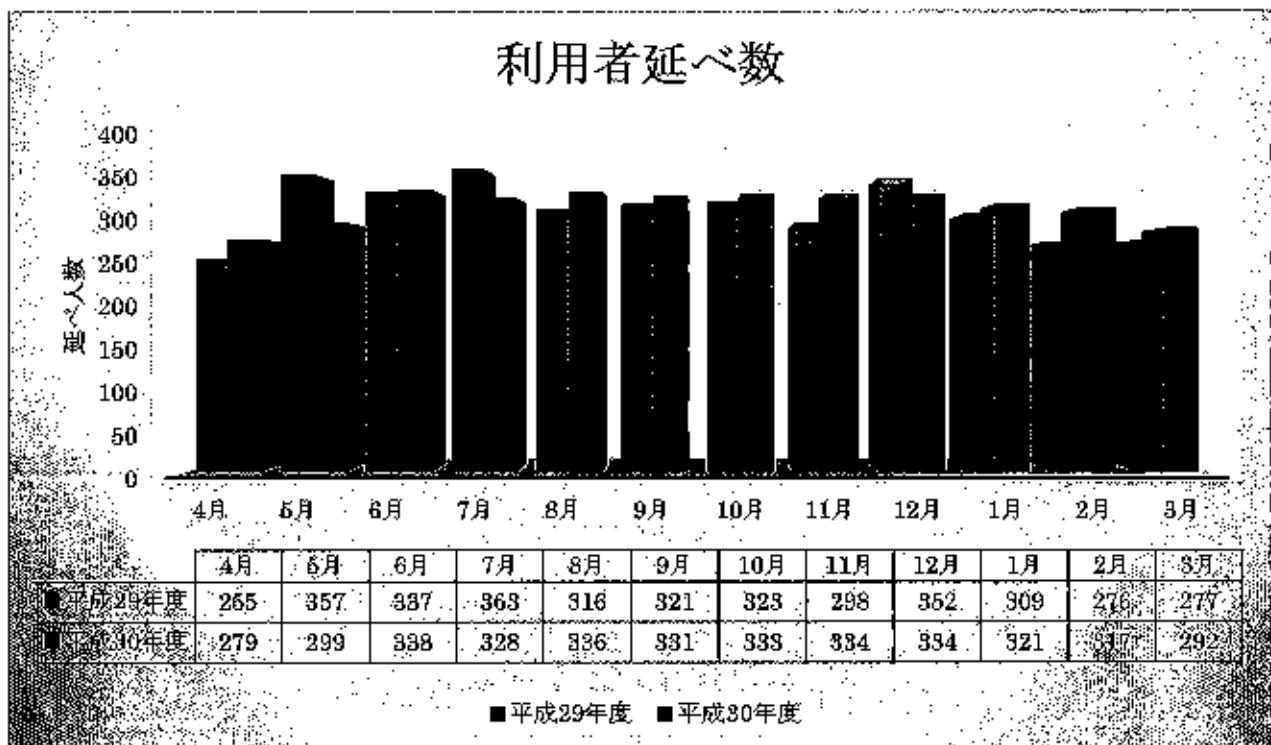
平成 30 年度稼働率 105.3%
平成 29 年度稼働率 103.7%
(前年度比 1.6% 増)



平成29年度利用者延べ実数 3,842人

平成28年度利用者延べ実数 3,784人

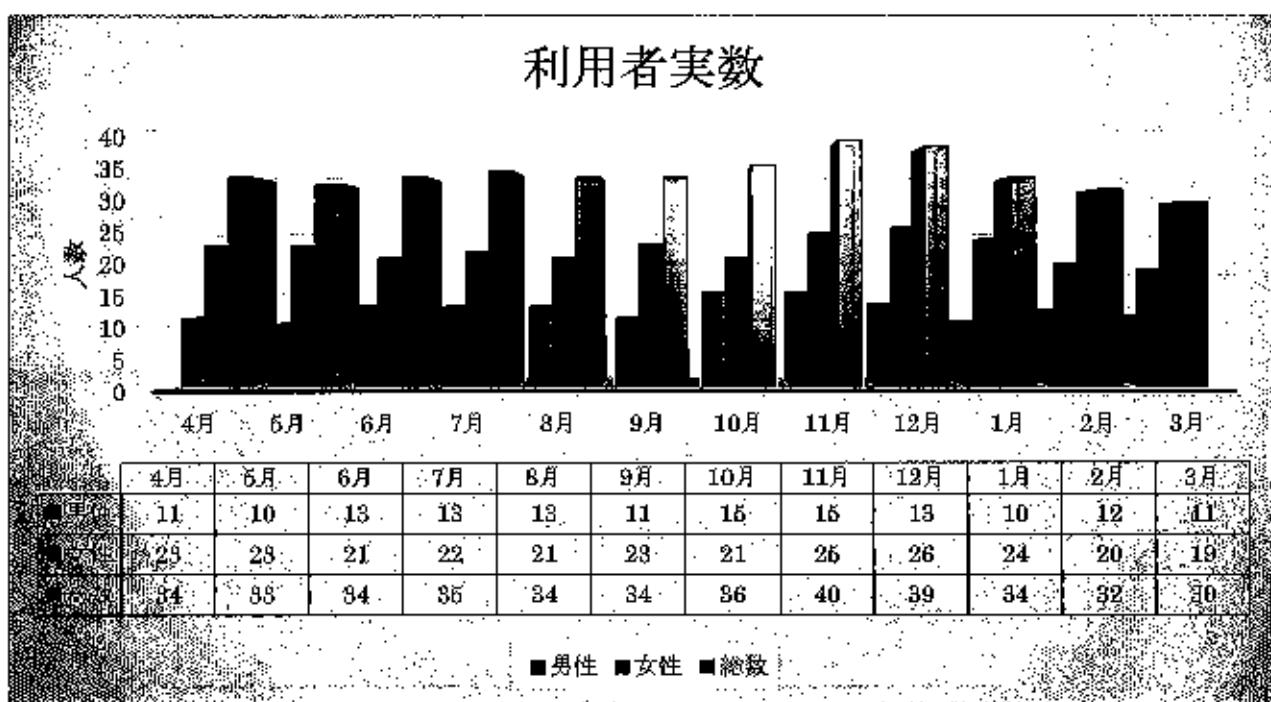
(前年度比 1.5%増)



平成30年度年間利用者延べ実数 415人

平成29年度年間利用者延べ実数 421人

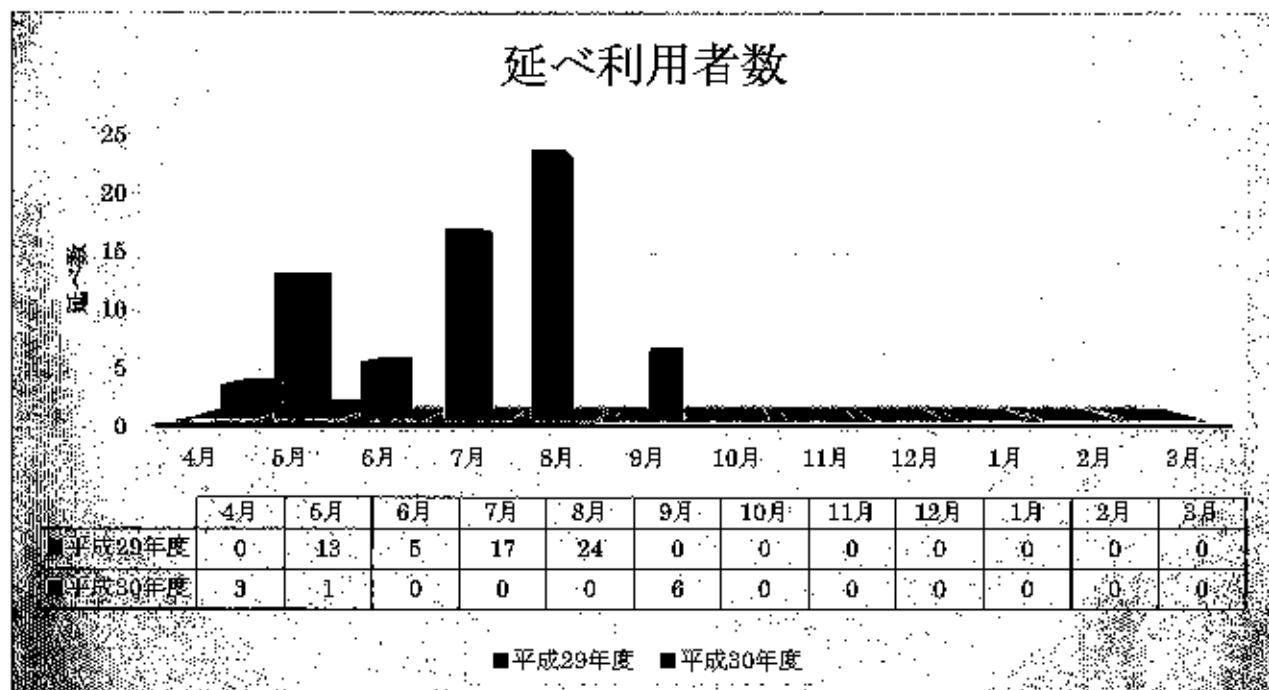
(前年度比 1.4%減)



【特別養護ユニテけいわ短期入所《空床型》】

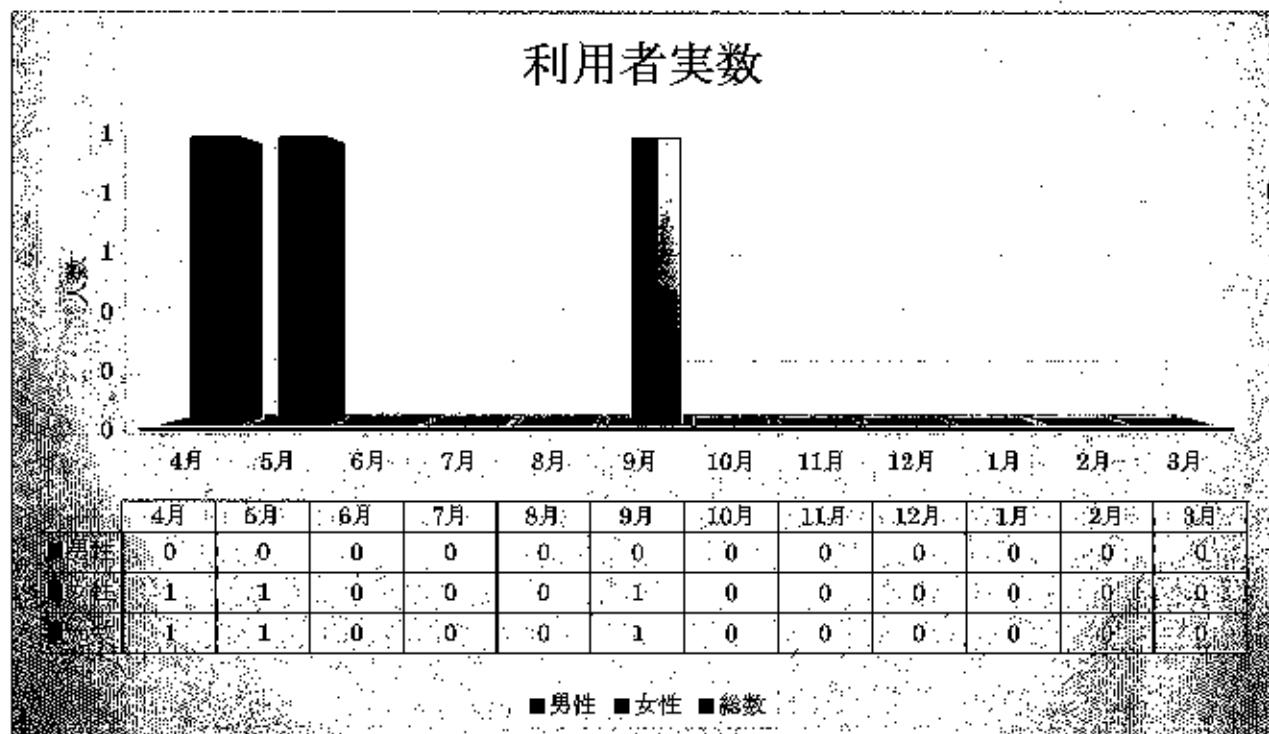
平成 30 年度利用者延べ実数 10 人

平成 29 年度利用者延べ実数 59 人



平成 30 年度利用者延べ実数 3 人

平成 29 年度利用者延べ実数 7 人



2) 地域包括支援センター

【実績】

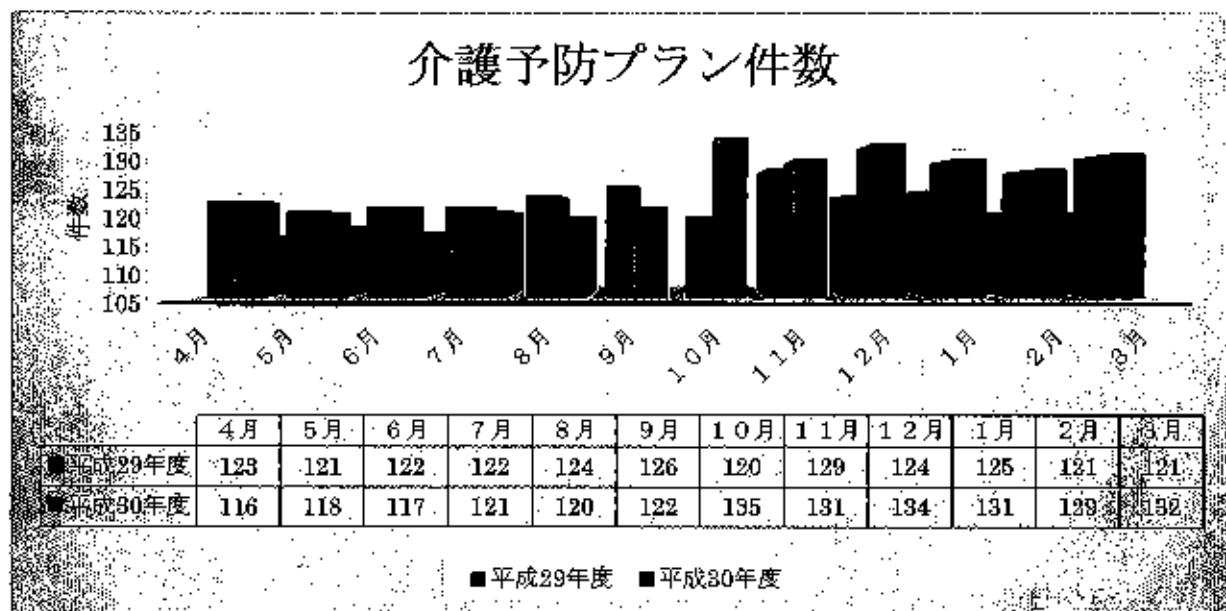
Ⓐ 支援件数

① 介護予防プラン件数

平成30年度延べ件数 1,506件

平成29年度延べ件数 1,478件

(前年度比 1.9%増)

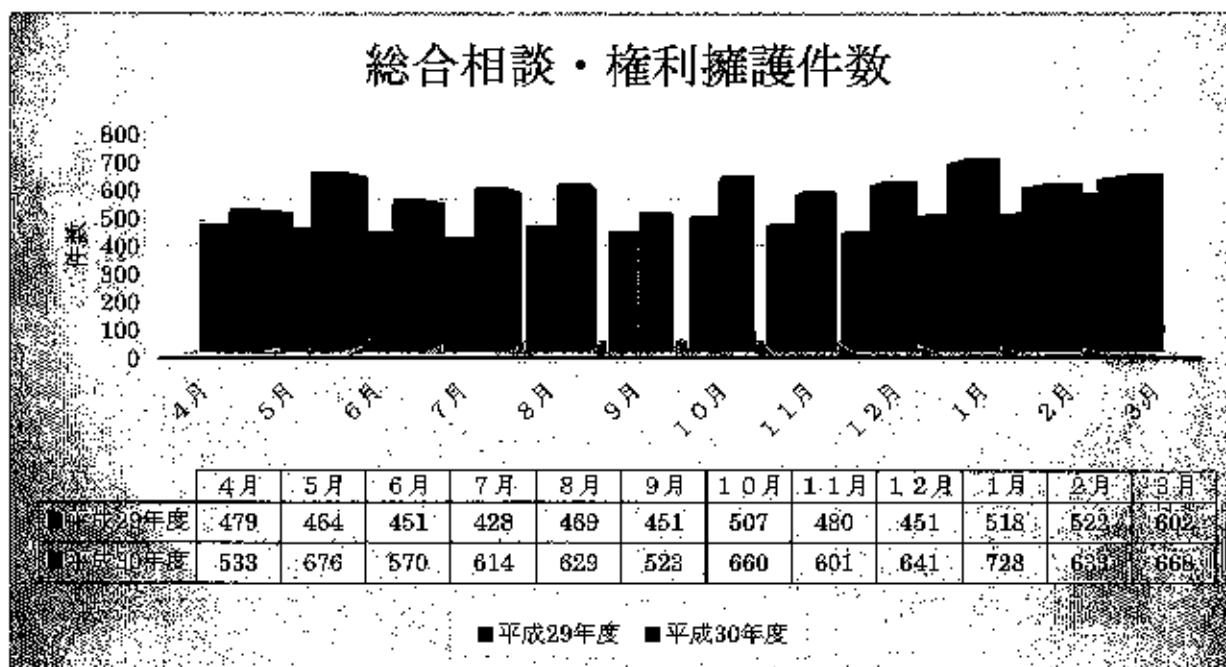


② 総合相談・権利擁護件数

平成30年度延べ件数 7,476件

平成29年度延べ件数 5,822件

(前年度比 28.4%増)

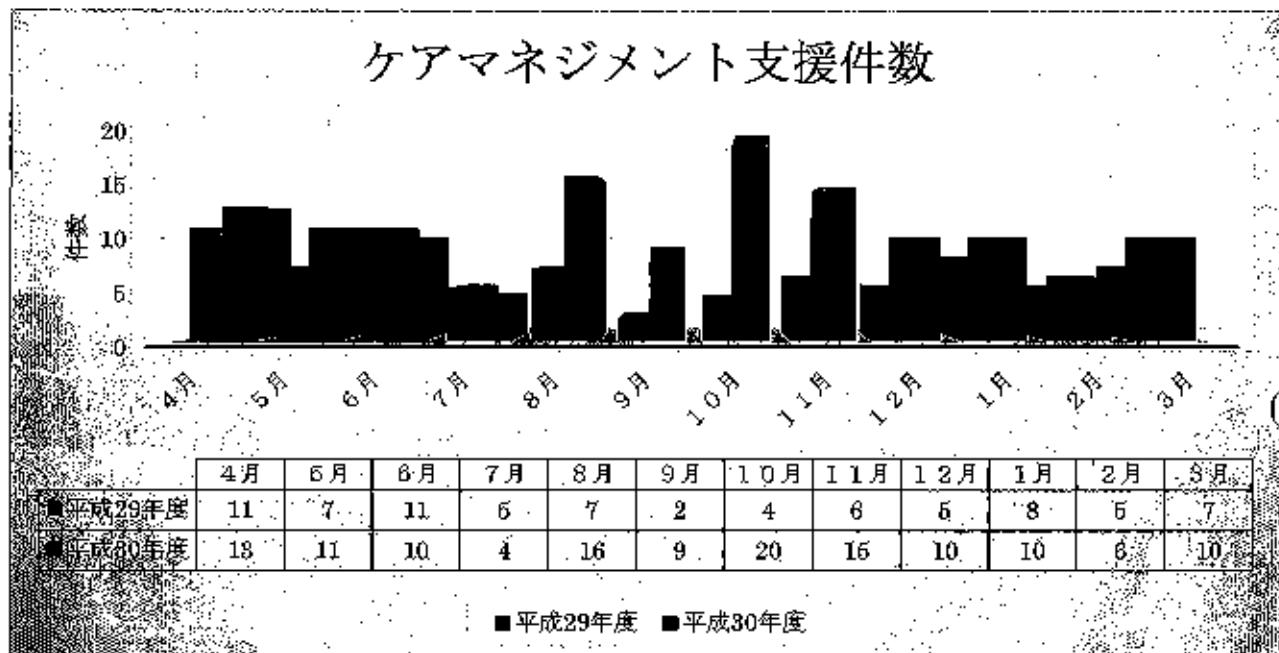


③ ケアマネジメント支援件数(ケアマネージャーの相談・支援、処遇困難事例支援)

平成 30 年度延べ件数 134 件

平成 29 年度延べ件数 78 件

(前年度比 71.8% 増)

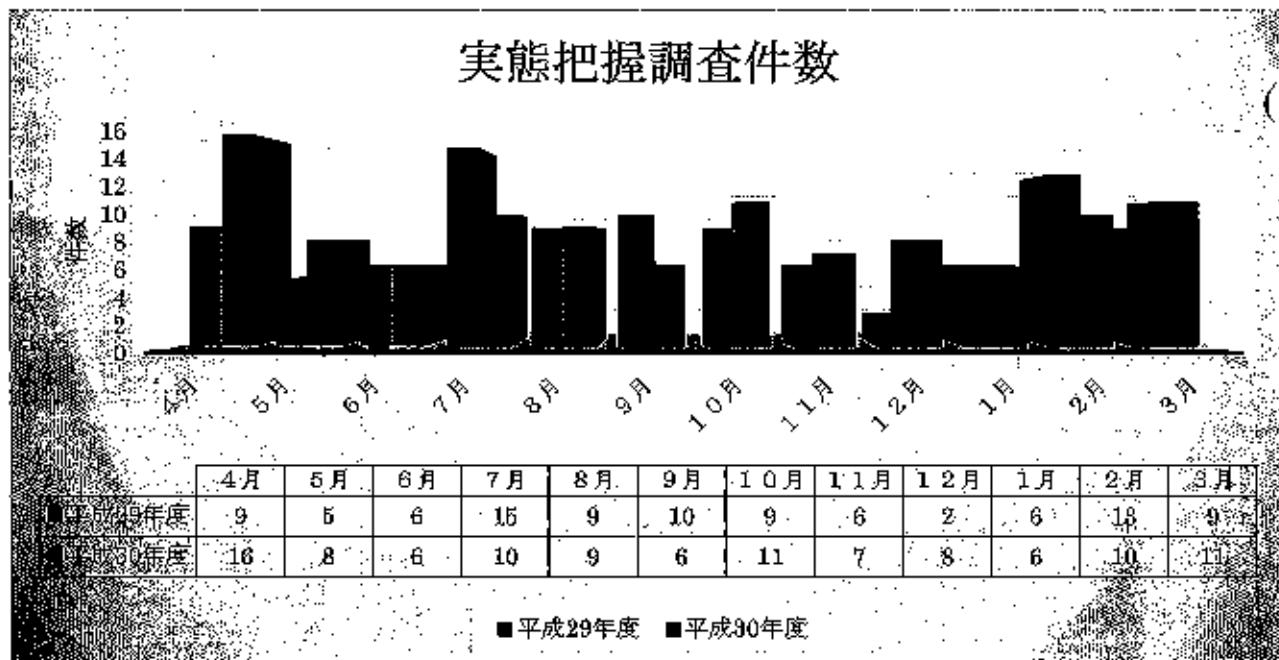


④ 実態把握調査件数

平成 30 年度延べ件数 108 件

平成 29 年度延べ件数 99 件

(前年度比 9.1% 増)



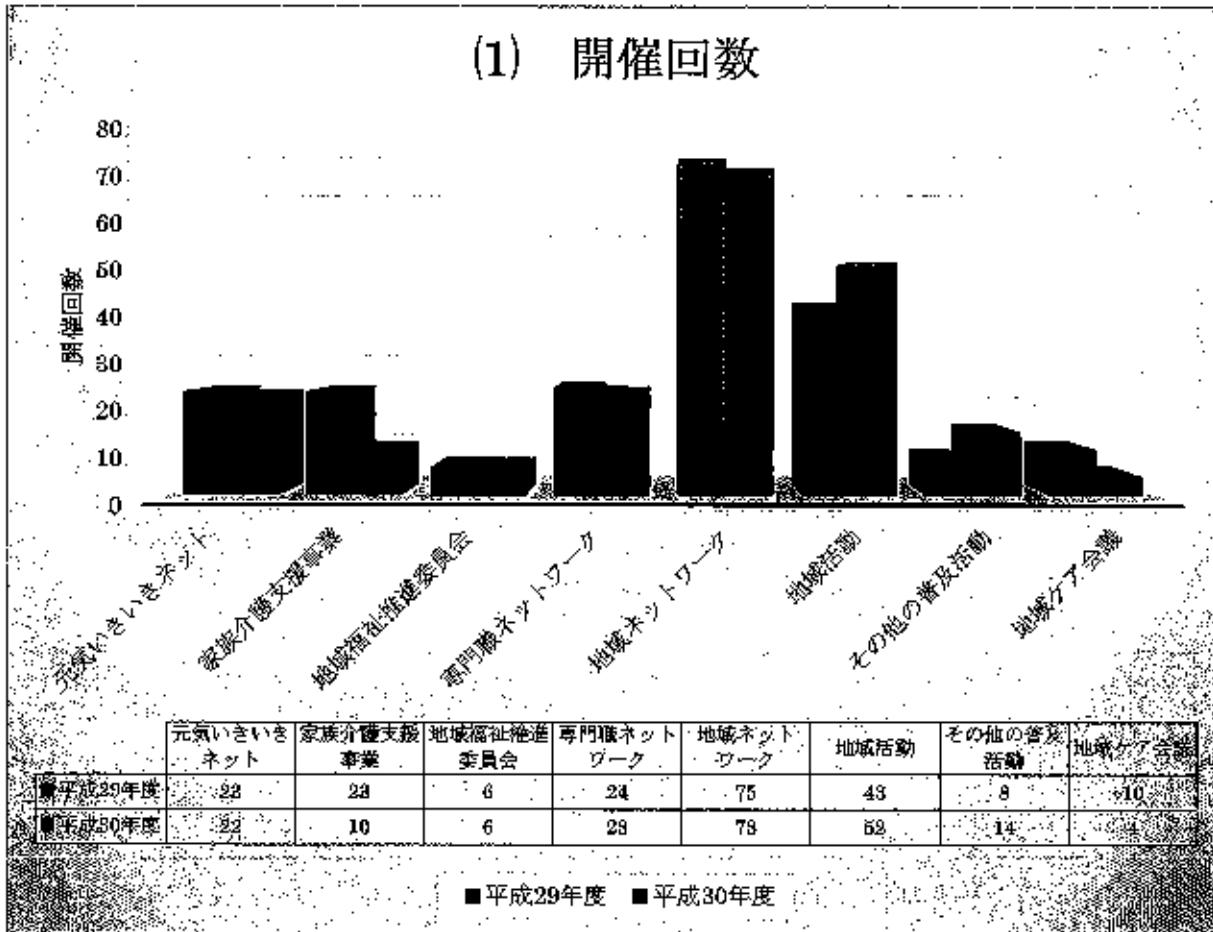
⑧ 教室・相談・会議等の活動状況

元気いきいきネット	料理教室（デモ）・料理教室・地域茶話会
家族介護支援事業	介護家族会「若草の会」
地域福祉推進委員会	サービス部会・健康部会（ラジオ体操講座）
専門職ネットワーク	ジャパンケア運営推進会議・ケア部会役員会 SOMPO 運営推進会議・ひかりディサービス運営推進会議 特養ユニテけいわ運営推進会議
地域ネットワーク	とびおげんき処・おぎのげんき処・耕割げんき処 認知症キャラバン・担い手研修・もりや亭プレオープン
地域活動	しあわせクラブ体操教室・体操サークル・鳩尾団地継続会議 小学生学習塾・鳩尾団地映画会・宮本地区継続会議
その他の普及活動	神奈川工科大学看護学部講義・認知症サポーター養成講座 認知症サポーター懇親会
地域ケア会議	地域ケア会議

平成30年度開催回数 204回

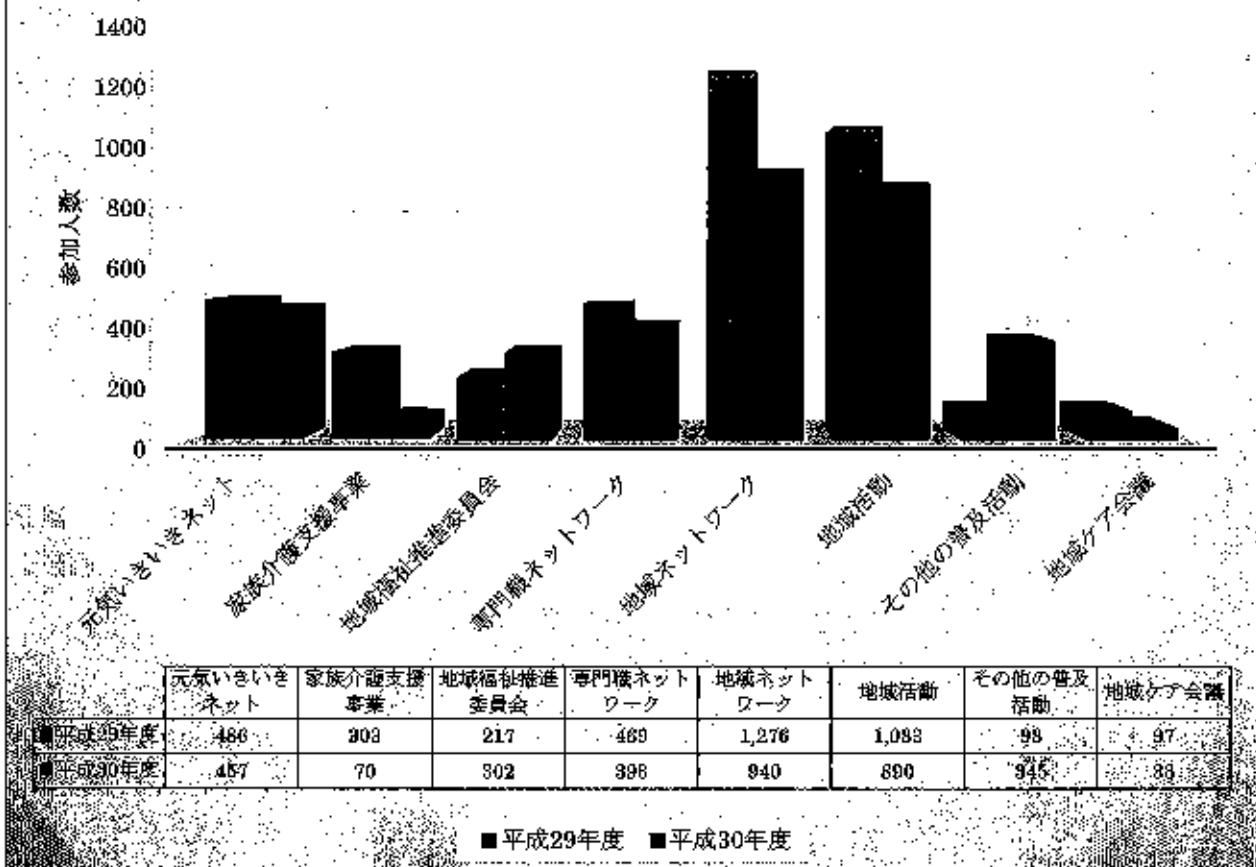
平成29年度開催回数 212回

(1) 開催回数



平成 30 年度参加人数 3,440 人
平成 29 年度参加人数 4,029 人

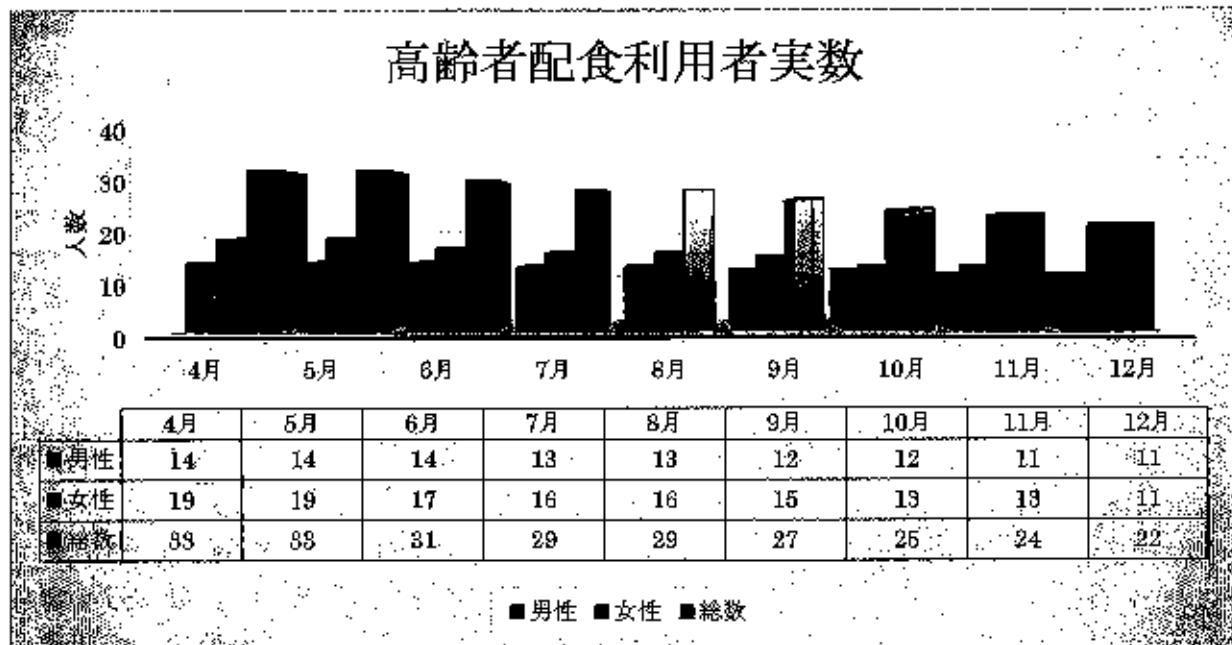
(2) 参加人数



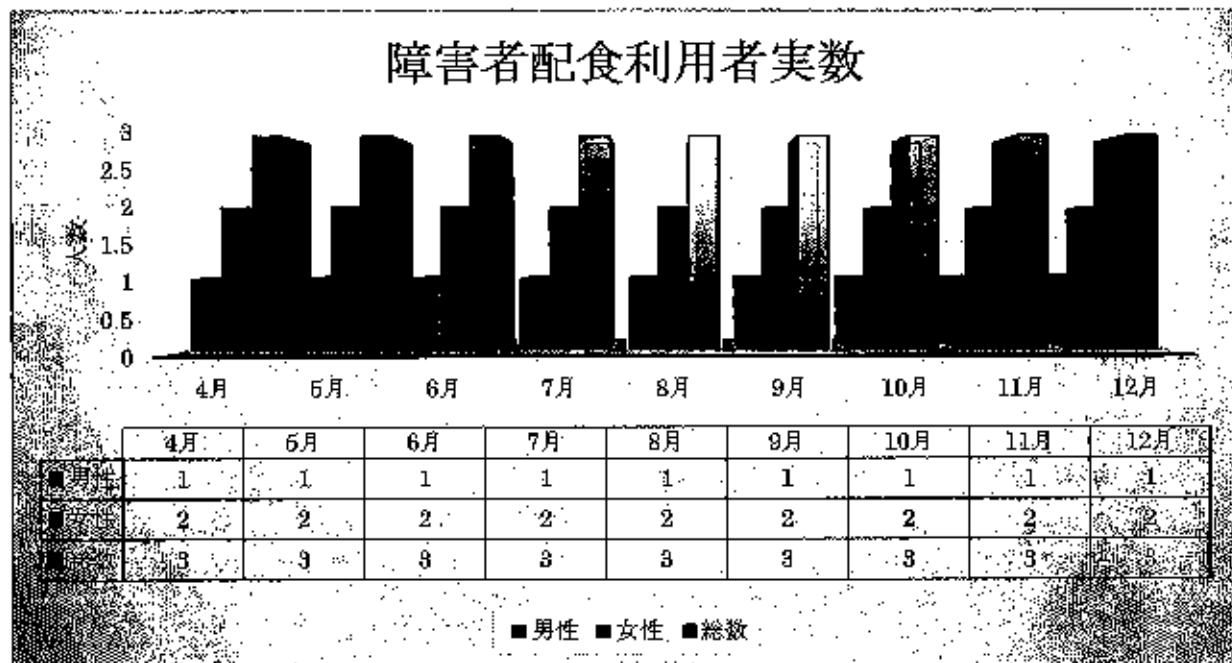
3) 配食サービス

平成 8 年度より開始された「厚木市高齢者等配食サービス委託事業」は、平成 30 年 12 月末日をもって、全面的に民間事業者へ完全移行しました。

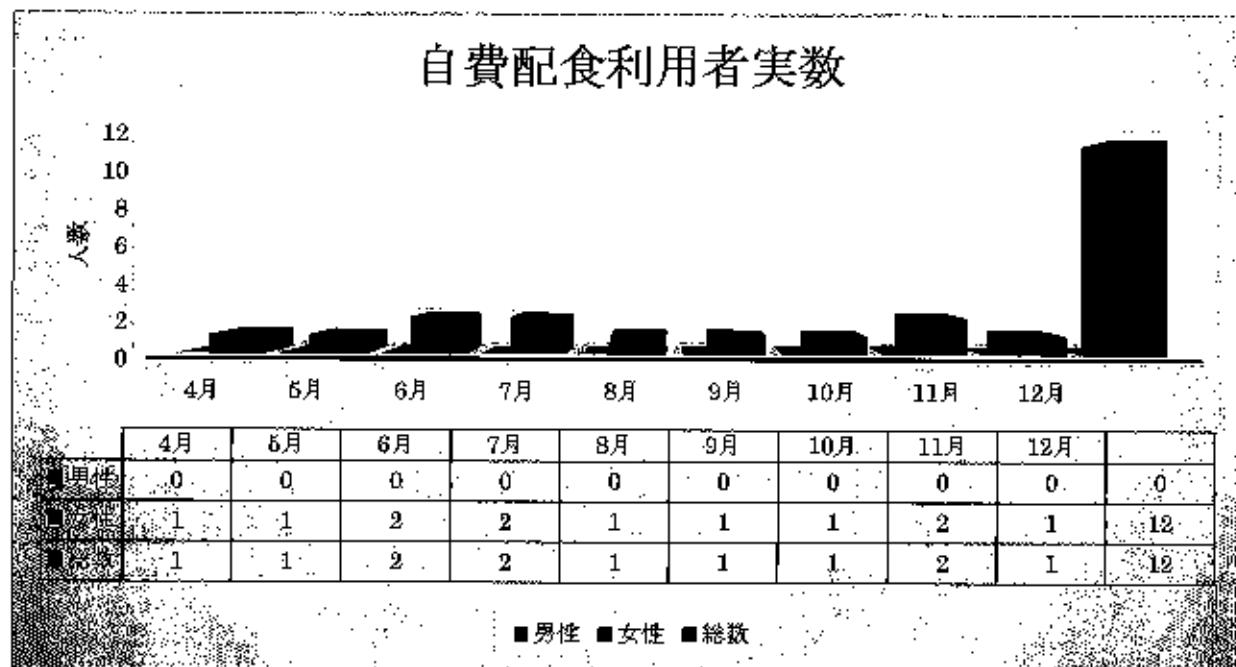
平成 30 年利用者延べ実数 253 人



平成 30 年利用者延べ実数 27 人



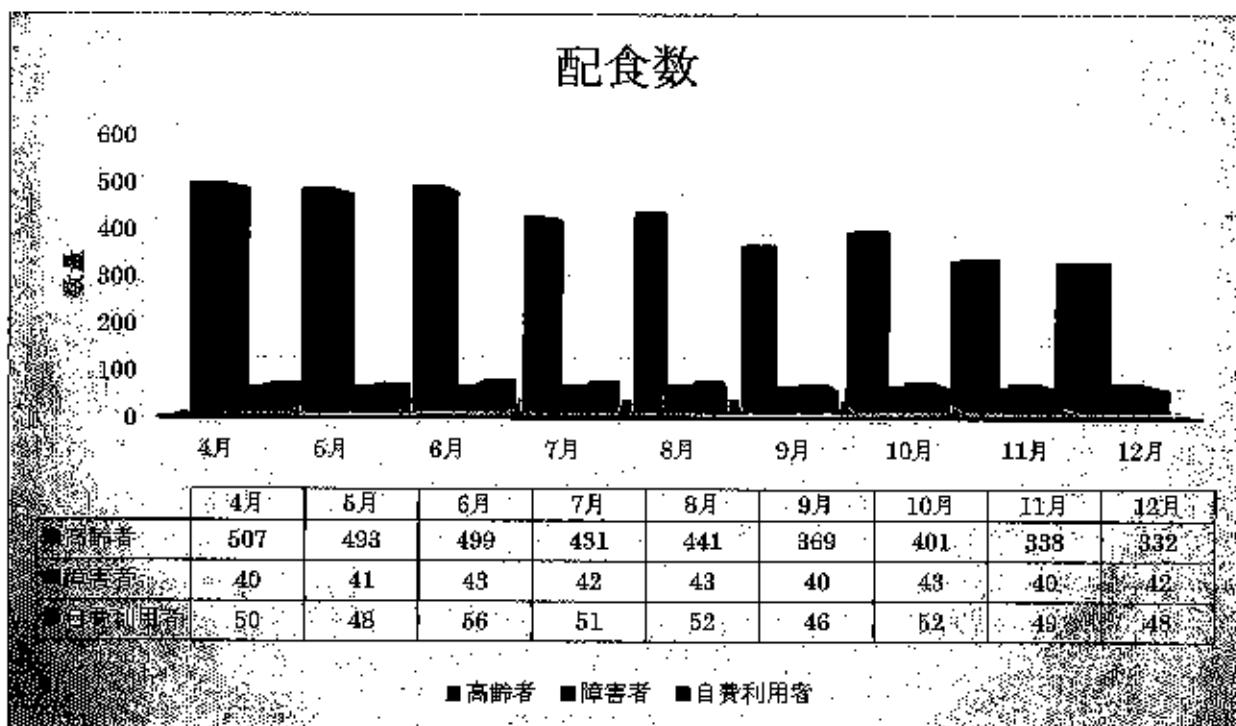
平成30年利用者延べ実数 12人



高齢者配食総数3,811食

障害者配食総数 374食

自費利用者配食総数 452食



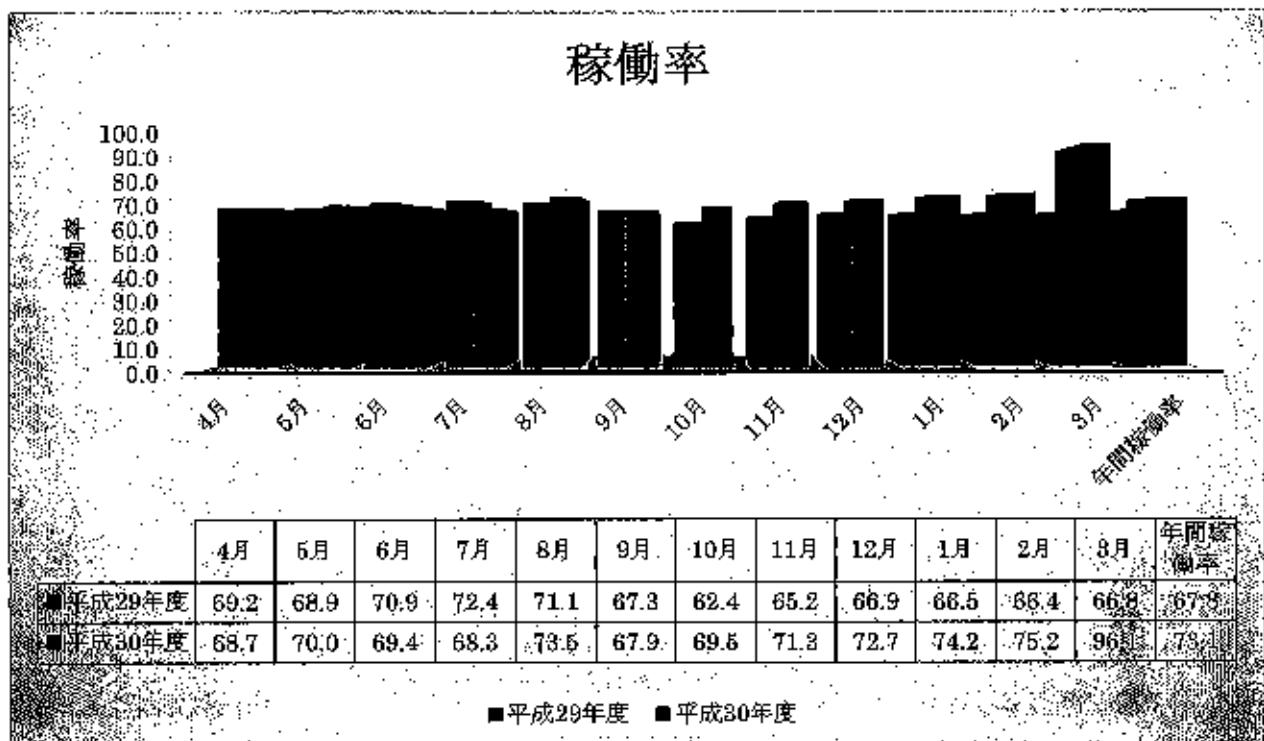
4) えまーぶる

I) 通所介護事業所（定員40名/日）

平成30年度稼働率 73.1%

平成29年度稼働率 67.8%

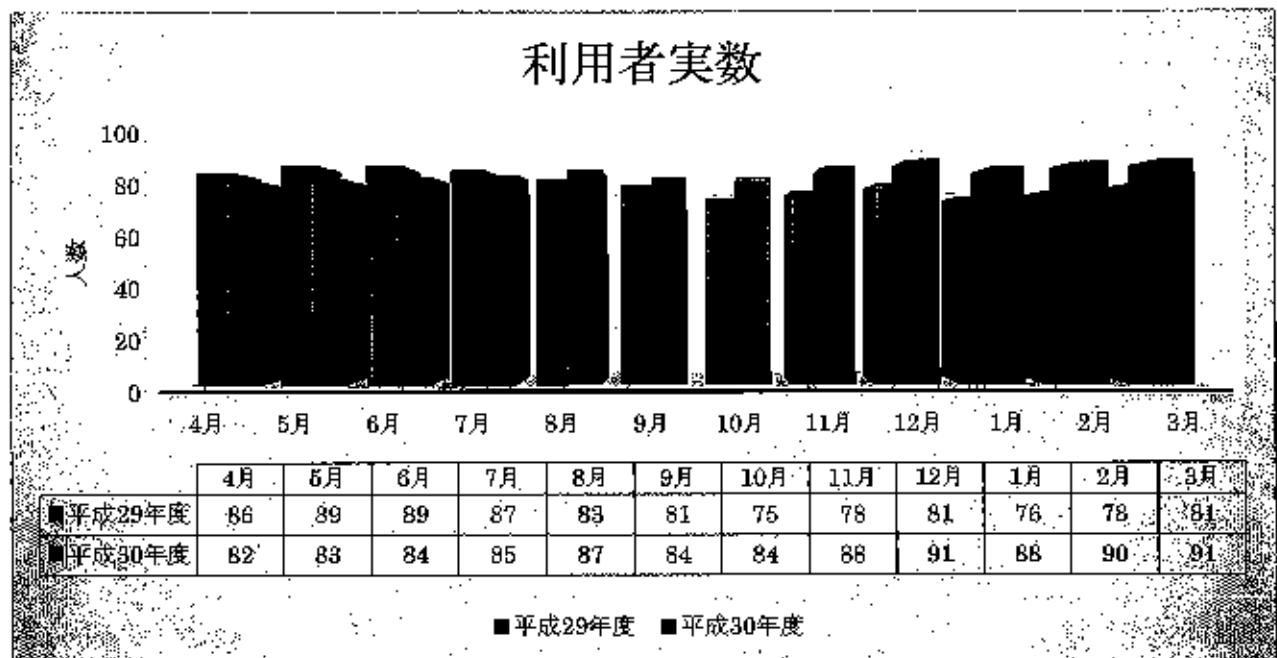
(前年度比 5.3%増)



平成30年度利用者延べ実数 1,037名

平成29年度利用者延べ実数 984名

(前年度比 5.4%増)

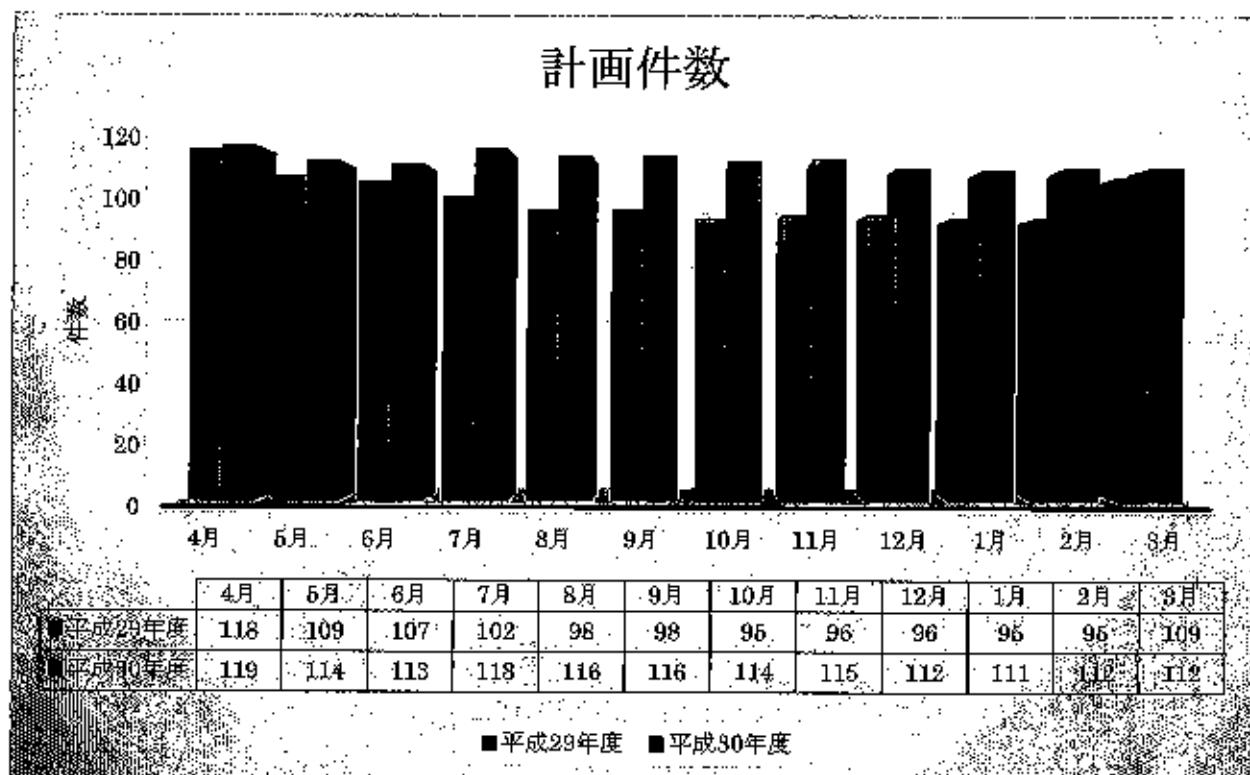


II) 居宅介護支援事業所

平成 30 年度計画延べ件数 1,372 件

平成 29 年度計画延べ件数 1,218 件

(前年度比 12.6% 増)

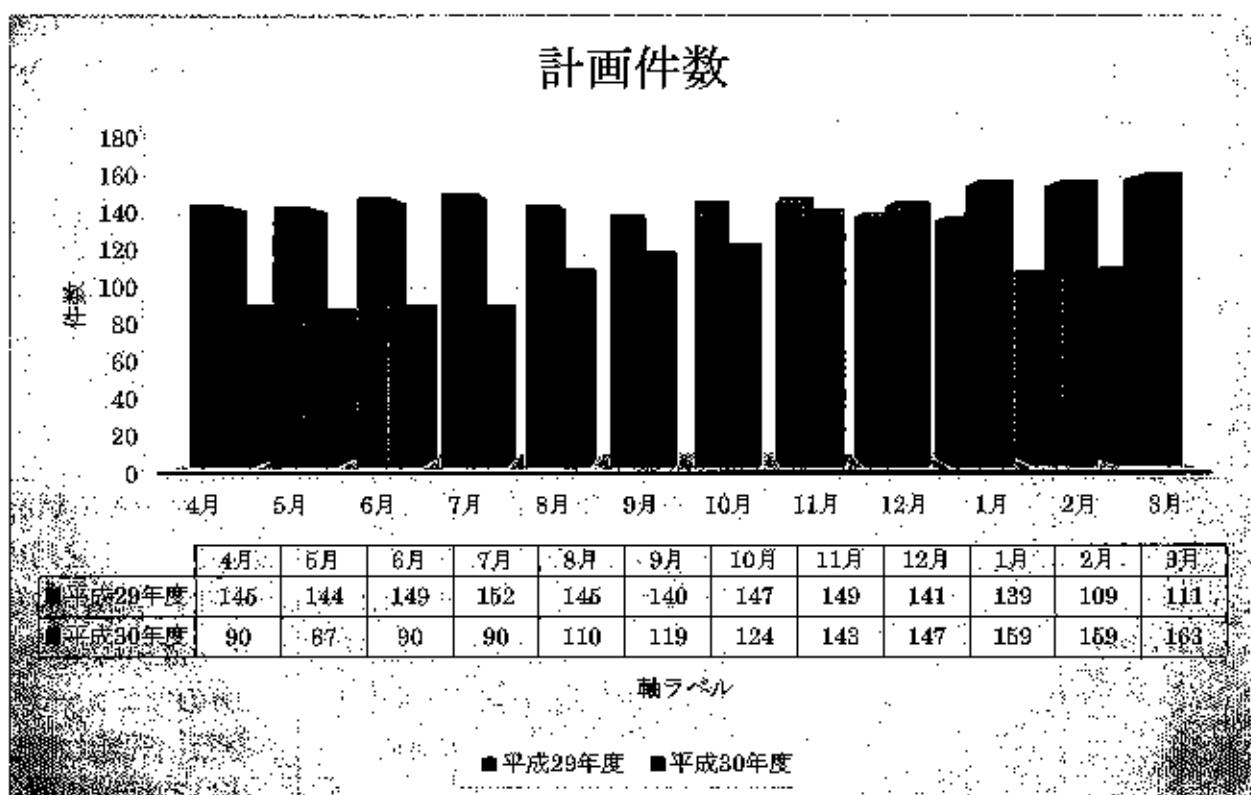


5) ケアプランセンターけいわ

平成 30 年度計画延べ件数 1,481 件

平成 29 年度計画延べ件数 1,671 件

(前年度比 11.4% 減)



- ⑥ 上半期の件数減少は、特定事業所加算Ⅲ→職員減少により加算なしとなつたため。平成 30 年 8 月 1 日～特定事業所加算Ⅱを取得、下半期において件数の回復に鋭意努力しております。

3. 管財課

事業総括

故障頻度が多くなり、また省エネ対策として更新を検討してきました施設全館の空調設備のリニューアル工事が、今年度完成致しました。補助金制度の取得、運用には結びつかなかったですが、圧縮した予算で事業を進めることができました。今後は空調機器の保全計画を立て、フロンガス定期点検等に対応してまいります。地震災害の対応としては、事業継続計画（BCP）の作成ができましたので防災マニュアルと合わせて活用致します。

（重点取組事項）

- （I）ライフライン安定供給の継続
- （II）地震防災対策のマニュアル化と防火対策
- （III）交通事故防止の推進

取組事項	取組内容と達成目標	目標達成状況	
(I)	①空調設備の交換へ ②LED照明導入及びエコキュート導入後の効果検証	○昨年度空調設備の改修に向けて補助金制度活用して省エネ診断を実施、どの部分を改善すれば省エネ効果が出るかを判断し、第2クールの機器更新工事の補助金申請へと進めて行き空調機器の高性能インバーター化を推進します。 ○新館及び本館の一部をLED照明に取り換えが終わり今年度はそのCO ₂ 排出削減効果を検証し、空調機器補助金申請の加算とします。 ○エコキュートは引き続き効果的に運用されるようボイラーとの運転調整を行い燃料費削減を図ります。	○10月～12月の工程で新館全箇所及び本館主要箇所の空調機器(I)(II)のリニューアル工事を行い完成しました。今後は空調機管理システムの導入を検討し、機器が円滑に稼働するよう管理します。
		○空調機器補助金の申請は条件が揃わなくて断念しましたが、CO ₂ 排出削減効果はLED照明の取付け効果で電気使用量は削減されており、また空調機器更新による電気料削減にも大きく期待するところですので、その効果を検証してまいります	

③水道及びガス供給設備の保全と管理	<ul style="list-style-type: none"> ○一昨年水管供給経路変更工事を行い、設備等含めて順調に供給されておりますが、水道以外による使用料の指針をチェック、施設内で漏水していないかの確認を定期的に行います。 ○ガスの供給は厨房など、器具よりガス漏れが起きないよう警報器の定期的な交換や点検整備を怠りなく実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水道設備において各機器及び配管に異常はなく順調に稼働しましたが、本館ボイラー設備が開設当時のものでしたので故障し修理不能となりましたので更新致しました。 ○ガスの供給においてはガスマーテー交換時期のため交換をしました。引き続き器具及び配管の点検を行います。
④建物・設備修繕の即対応の励行	<ul style="list-style-type: none"> ○施設スタッフにて修繕できる作業は積極的に行うことを基本とします。 ○物品等の購入は複数の業者に見積を依頼し決定、小規模以外の工事やメンテナンス業務を発注する際は経理規定に順守した発注形態を選択します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開設当時からの設備であります本館ナースコールシステムは更新時期をどうに迎え、介護業務に支障をきたす恐れもあり、リニューアル致しました。 ○陽だまりの壁紙が損傷が多くなったため、張替えをしました。また、陽だまりフロア空気環境改善のため、加湿機能付き大型空気清浄器を設置。結果として大幅に室内環境が良くなりました。

(Ⅱ)	①大地震に備え事業継続計画(BCP)の作成と訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○大地震に備え防災マニュアル以外に、地震発生後にも対応したBCP計画を作成、訓練等を通して迅速で適切な対応が取れるように致します。 ○安否情報サービスを活用し、職員と常に連絡を取り合い緊急時の通信対応を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震発生後速やかに効果的に行動出来るよう施設マニュアル委員会においてBCPを作成しました。 ○安否情報システムは定期的に全職員に訓練メールを送信、地震時に相互確認がとれるようにしております。
	②防火対策と消防訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○火元にならないよう館内の整理整頓を順守、消防設備の定期点検等での不具合の個所は速やかに交換修理を行います。 ○夜間時に火災が起きた際は職員が少ない人数で通報・初期消火・避難誘導が出来るよう、年2回の訓練等で適切な対応が出来るよう徹底を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合点検で指摘の廊下通路誘導等、非常放送用スピーカーの交換しました。 ○例年どおり4月、10月に消防本部と火災通報の交信を入れた消防訓練をしました。 ○消防訓練後に防災備品である小型発電機の始動など取扱い訓練及び受水槽位置の確認等を行った。
(Ⅲ)	①交通事故に遭わない、起こさない運動の推進 ②施設車両の管理	<ul style="list-style-type: none"> ○けいわ荘安全運転10ヶ条の厳守。 ○けいわ荘安全運転マニュアルを熟知し、危険な行為は何か、危険な個所はどこかを職員全員が認識することが重要と考え安全教育を行ってまいります。 ○全国交通安全週間に合わせ、ポスター、注意事項掲示板等で職員の交通安全に対する認識の向上に努めます。 ○安全運転管理者及び運転 	<ul style="list-style-type: none"> ○軽微な物損事故は3件ほどありましたが、人身事故はありませんでした。引き続き日常より職員が交通ルール及び、交通マナーの尊守を継続できるよう交通安全のポスターや掲示板等で、無事故の向上に努めます。 ○全車両31台の定期点検の実施と日常点検としてタイヤの溝チェック、ブレーキランプ、オイルチェックなどを行い、整備不良にならないよ

		<p>担当者が中心となり、各車両の日常点検整備を行います。</p> <p>○車両管理台帳を作成、車検の有効期限、一年点検日等を把握し、常に安全な状態で運行できるよう管理致します。</p>	う努めました。
--	--	---	---------

主な平成30年度施設補修・改修関係内訳

番号	補修項目	場所	番号	補修項目	場所
1	丁ミストカ-2台購入	施設	8	浄化槽ボンブ3台交換	施設
2	空調機3台交換	厨房	9	浄化槽水中プロア2台交換	施設
3	マルチエアコン交換	エレベ	10	介護リフト2台購入	一般棟
4	汚物処理機修理	一般棟	11	汚物処理機修理	陽だまり
5	ボイラー修理	新館	12	大型加湿空気清淨器購入	陽だまり
6	壁紙張り替え	陽だまり	13	空調機更新工事	本館新館
7	テレビ2台購入	一般棟	14	ナースコール更新工事	本館

4. 総務課

事業総括

社会福祉法改正の趣旨に則り、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上への取り組みを積極的に推進してまいりました。

組織全体の意思疎通を図るために必要に応じて職員、利用者、そして利用者家族への情報提供等を行い、事業を進めてまいりました。

特に社会福祉法の改正による法人制度改革の対策のために、課長会議、評議員会、理事会を定期に開催し、組織全体で情報を共有し、適切な運営に努めてまいりました。

職員一人一人の視点に立って、「働き方改革」を推進し、職員一人ひとりの意思を尊重し、ワークライフバランスの体制を整備するとともに、より良い将来のキャリアデザインが描けるよう支援してまいりました。

今後において、職員一人ひとりのキャリアを設計できる法人としての体制を強化(し、望ましい成長イメージである「なりたい自分」になれる好循環を創り出し、やりがいのもてる道筋を創り出していくかねばならないと考えております。

総務課職員は、介護職員の黒子として最大限のサポートに徹し、また、仕事を進めていくにあたり、協調性は、法人・組織・個人にとって大切な要素であり、円滑にコミュニケーションを図り、同じ目標に向かって仕事を進めることができるよう心掛けたい。

取組事項	取組内容と達成目標	目標達成状況
(I) 1.利用者の尊重	<ul style="list-style-type: none">○固有の人格・価値観を尊重する。<ul style="list-style-type: none">・職員は、利用者を固有の人格とそれに伴う価値観を持った存在として捉え、尊重する。○ご利用者の笑顔を大切に<ul style="list-style-type: none">・ご利用の方々が常に快適に過ごせるよう、ハートフルな福祉・介護サービスでQOL(生活の質)の向上に努める。○ありのままを受容す	<ul style="list-style-type: none">○ご利用者一人一人の想いに寄り添いながら支援してまいりました。○ご利用のことを第一に考え、快適な生活が送れるよう、介護職員の黒子となってサポートしてまいりました。○職員主導ではなく、ご利用者・ご家族の立場に立ったサービスを提供してまいり

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者が支援・援助を必要とするに至った事情や背景及びその態度・行動・過去・思想・短所を事実としてありのままに受け入れることにより、問題の本質を明確にする。・利用者の願い、要望、疑問、不安、不満、苦情などの利用者の声を謙虚に受け止め、敬意をもって尊重する。 <ul style="list-style-type: none">○コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫をしていく。○利用者一人ひとりの個性や主体性を尊重し、自己決定を基本とした支援を心掛ける。○利用者が他人に干渉されず、地域の中で自立した生活が送れるよう、利用者自身が問題を主体的に考え、その責任において問題解決ができるよう支援する。○支援していく中で、利用者が自由に意見を述べができるよう配慮することや利用者自身による選択・決定を尊重する。	<p>ました。</p> <ul style="list-style-type: none">○ご利用者一人ひとりには、長年大切にしてきたライフスタイルがあり、職員はできる限りの個々の文化を知る努力をし、その価値観を尊重して、ご利用者ならびにご家族の喜びと生き甲斐を実現できるよう努めてまいりました。○ご利用者ならびにご家族の意向を十分に聞き取り、最大限生かせる努力・工夫をしてサービスの提供をしてまいりました。○ご利用者の自己決定の権利は、人間としてなによりも優先され、尊重されるべきであり、ご利用者の尊厳を守るために大切にしてまいりました。○ご利用者一人ひとりの個別性やその時々の状況に合わせた柔軟且つ迅速な対応をしてまいりました。
--	--	--

	2.高品質な自立支援	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者が過ごしやすい環境づくりに取り組む。 ○敬和会における介護 福祉サービスは、利用者への安全性・安心性・安楽性・快適性・満足度の提供を旨とし、利用者一人ひとりの自己決定・利用者本位・自立支援・自己実現を目指し、環境整備に努めながら、生活の向上と専門性を追求した高品質な介護サービスの提供に努めていく。 ○日々の実践を検証し、利用者に安全・安心・良質なサービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ご利用者の安全性・安心度・快適性・満足度を常に意識して対応してまいりました。 ○ご利用者の生命を第一に考え、生活の向上を図り、良質なサービスの提供に努めてまいりました。
	3.家族との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ご家族との情報共有化に努め、ご家族と上手に連携をとり、ご利用者の介護に活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○面会されるご家族が気持ちよくご利用者と面談されるよう接遇面に意識して取り組んでまいりました。
(II)	1.地域共生社会の実現を目指したサービスの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○敬和会ブランドの確立。 ○理念・方針の組織内浸透。 ○地域福祉のパイオニアたれ。 ・地域と連携を図りながら、福祉・介護サービスを積極的に展開し、地域福祉の先駆者としてチャレンジしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ○常に経営理念に立ち返り、伝統を守り、貢献に尽くしてまいりました。 ○歴史の重みを感じつつ、多様化する地域福祉サービスに取りくんでまいりました。 ○ご利用者並びにご家族の皆

	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ姿勢を大切に <ul style="list-style-type: none"> ・常にご利用者の方々から学び、「目配り」「気配り」「声かけ」ができるよう自己研鑽に努める。 ○地域社会の一員としての自覚を持ち、常に社会から信任を受けるように努め、関係機関、団体等との密接な連携協働のもと、利用者支援と地域福祉の向上にあたる。 ○利用者が社会を構成する一員として、ゆとりある市民生活が送れるように支援する。また、そのための情報や知識の提供が受けられるよう、地域との交流を図るとともに、利用者の地域活動への参加についても積極的に支援していく。 	<p>様から学ぶ姿勢を大切に取り組んでまいりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センターとの連携を図り、地域福祉の向上に対応してまいりました。 ○若干名ではあるものの毎年荻野小学校の運動会に参加し、地域の人たちとの交流が図られました。
2.社会貢献への実践	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事への積極的参加 ○日常取り組みの中での関係づくり（挨拶、散歩、買物、地域催事等） ○施設催事へのお誘い ○荻野小学校・荻野中学校との交流行事への広報 	<ul style="list-style-type: none"> ○遠足・外出・ドライブ等が定期的に実施され、地域の人たちとのふれあいがなされました。 ○荻野小学校の慰問、荻野中学校・小鯱中学校の職場体験学習が行われ、広く交流がなされました。
3.ボランティアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に住むボランティアとの情報交換や 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週水曜日多くのボランティアの来莊により情報交換

		<p>連携を強化することにより、地域の中で福祉課題を抱える人を見逃さず、必要な福祉サービスの提供に繋げていくための体制作りを促進する。</p>	<p>や連携を強めることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月のホーム喫茶にボランティアの皆さんのが協力し、ご利用者の皆様に楽しみを提供していただきました。
(III)	1.研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内研修の継続化と外部研修の参加を積極的に推進し、職員のスキルアップを図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回の施設内研修会及び多くの外部研修に参加し、職員のスキルアップが図られました。
	2.専門職種間の協同による資質の育成と向上	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センター・民生委員・ボランティア団体・自治会との連携と協同を積極的に推進していく。 ○介護支援専門員の専門性の土台の上に、多職種連携スキルの研修・トレーニングが重要となり、多職種連携のスキルアップが、ご利用者のニーズに応じた地域包括ケア推進の鍵となる。 ○相互の専門性を尊重し、他の専門職等との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センター・民生委員・ボランティア団体・自治会との連携と協同が積極的に行われました。 ○研修会を通して、多職種連携が強化され、地域包括ケアの推進が図られました。
	3.人材定着のための取り組みと働きやすい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT化活用による効率性と質の担保の両立 ○介護職員の能力を客観評価する指標を別途構築する必要性 ○ノーリフトポリシーの義務化に向けた検討 ○介護人材に関するグランドデザインの作 	<ul style="list-style-type: none"> ○人材定着への取り組みは、十分とはいえず、介護職員の不足に悩まされました。 ○新人職員への定期的な面談が必要と考えます。 ○「育てる施設」を目指し、その方策が喫緊の課題あります。 ○ノートナーの採用により、

		<p>成、人材連携・研修教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国人研修生の活用 ○ICT化による業務効率化 	業務の効率化がある程度向上しました。
(IV)	1.経費の節減	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の運営経費において人件費と並んで大きな割合を示す光熱水費の低減化 ○職員は、常に経営の視点を持ち、サービス向上のため、常に業務を点検・改善し、無駄を省き合理的かつ効率的な運営に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員一人ひとりの共通認識が大切であり、常に無駄を無くしていく努力が必要です。 再度、チェックが重要と考えます。
	2.利用率の安定と新規利用者の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問の強化 ○定期採用試験の実施 ○施設内外での就職説明会 ○転職サイトの効果的活用 ○公益事業に限定せず、効果的な広報戦略の研究 ○法人価値をビジョン化し、内外に伝達 ○ホームページを活用した情報開示の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問および連携強化により高校生 1 名の採用に繋げましたが、新規及び中途採用の在り方を研究すべきと考えます。 ○厚木市主催の「就職相談会」では、数人の採用に繋がり、結果を出せたと考えます。
	3.業務の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○年度財務計画及び中長期財務計画の進行状況の把握と支援 ○制度改正の趣旨に準拠した規程等実務内容の検証、評価と修正 ○制度改正後の理事会・評議員会・監事への適切な対応 ○時間と労力の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ○定款および就業規則を変更し、「働き方改革」の一環として定年制の延長（60歳から 65 歳）およびフレキシブルタイムの導入が平成 30 年 10 月 1 日より実施され、職員一人ひとりのワークライフバランスの体制を整備するとともに、より良い将来のキャリアデザイ

	<ul style="list-style-type: none">○介護職員の情報の共有化○申し送りルールの不徹底の防止○職員のストレスの軽減○2025 年度問題の解決の鍵は ICT の活用が不可欠○ご利用者に係る各部署からの請求明細をデータ化し、情報の一元化を目指す。	ンが描けるよう支援してまいりました。
--	--	--------------------

5. ケアハウス「えがりて」(定員 30 名)

事業総括

社会福祉法人敬和会が運営するケアハウスえがりては、社会福祉サービスを必要とする方が心身ともに健やかに生活され、社会・経済・文化その他あらゆる分野に参加する機会を創出し、その環境、年齢及び心身の状況に応じて、一人一人に寄り添った真心のケアサービスを提供することを目的としております。

平成 30 (2018) 年度は、入居者の高齢化に伴う身体能力低下により、より個々に応じた多様なサービスの提供が求められるようになってきました。そのため、ケアマネージャーを中心にケアプランの見直しに取り組み、「ご入居者の自主性と自立性を尊重し、安心して健康で充実した生活を送っていただく」ことを運営の基本とし、運営懇談会でのご入居者様の要望を積極的に検討・実行に移し、個々のニーズに対応したサービスの提供に努めてまいりました。

中でも、健康管理については、高齢化が進んでいることから、早期疾病対策に努めるとともに、心身機能低下がみられる入居者には、介護保険サービス利用等の助言を行い、生活の安定に努めてまいりました。

入院、特養への入居及び退去等により、平成 31 年 3 月 1 日現在で、定員 30 名に対し 22 名、年間稼働率 84.7% でした。

ケアハウスの趣旨や形態が、地域で十分に理解されていない現状がありますが、「多少の助けがあれば過ごせる高齢者が、身近な地域の中で安心して暮らせる施設づくり」を目指し、地域諸機関・行政のご支援のもと、諸課題を克服しつつ、真摯に仕事に取り組みご入居者様の確保・獲得に努めてまいりましたが、満床には至りませんでした。

入居者が、健康で自立した生活が出来るよう日常生活での不安や悩みについて、入居者及びその家族とのコミュニケーションを積極的に図り、心理、情緒面の支援を行いました。

「尊厳の保持」と「自立支援」を目標に、入居者様の住まいであることを十分認識し、笑顔が絶えないケアハウスえがりてにしていくために、「その人らしく」生活できるよう一人ひとりのニーズを大切にするとともに、毎月 1 回実施している運営懇談会で、ご入居者・ご家族のご意見やご要望を把握し、的確な対応に努めてまいりました。

今後とも、入居者様の自主性を尊重することに主眼をおき、入居されている皆様が、「健康で喜びをもって生きられる環境づくり」ならびに「明るく心豊かな日常生活を送っていただく」ことに全力をあげてサポートしてまいります。

平成 31 年度も引き続き、個々のニーズに応えられるケアの実施に積極的に取り組むと共に新規入居者の確保にも努めてまいりたいと考えております。

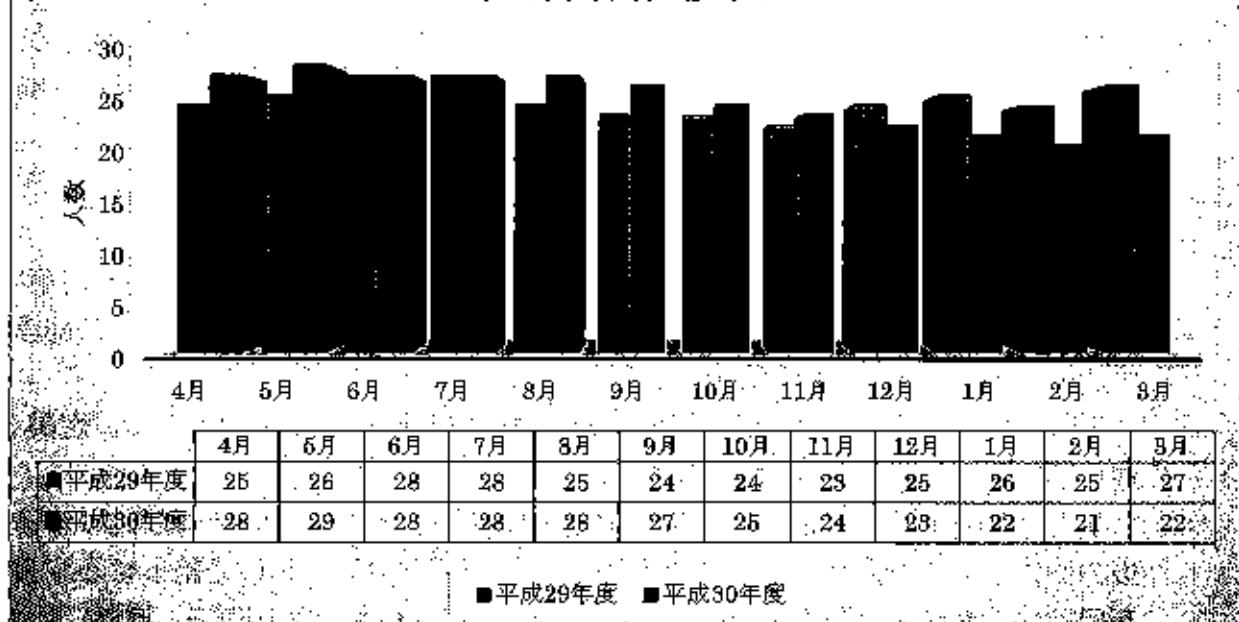
ケアハウス えがりて 入居者推移表（前年度比）

※入居者数は各月 1 日現在
平成 31 年 3 月 1 日現在

定員 30 名

(単位：人)

入居者推移表

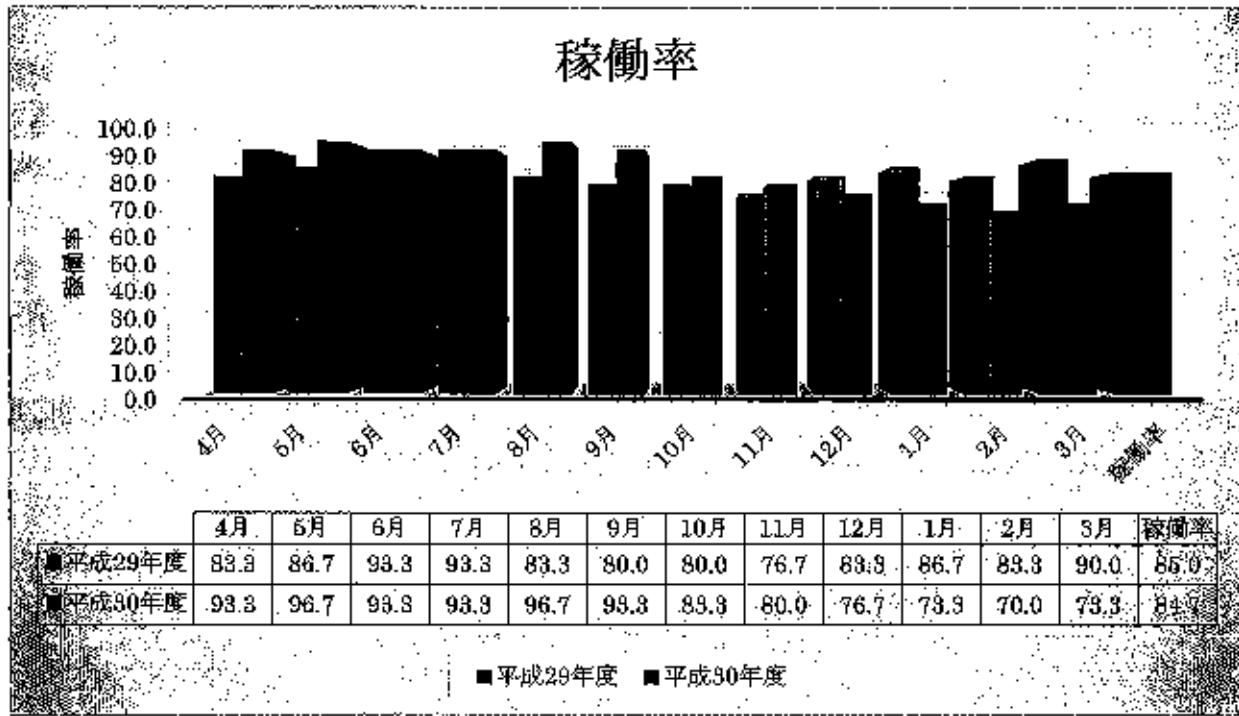


平成 30 年度稼働率 84.7%

平成 29 年度稼働率 85.0%

(前年度比 0.3% 減)

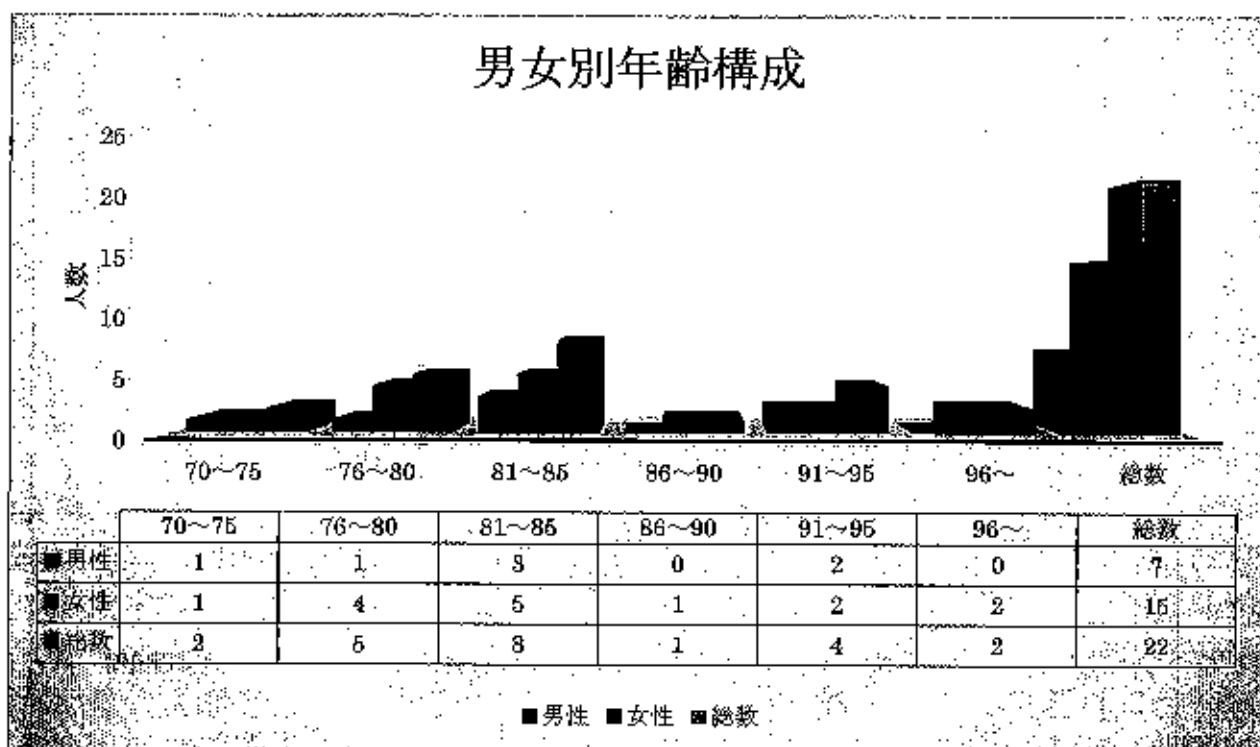
稼働率



ケアハウス えがりて 年齢構成

(平成31年3月 1日現在)

① 男女別入居者年齢構成



② 平均年齢、最高・最低年齢

	入居者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	7名	83.3歳	93歳	70歳
女性	15名	84.5歳	98歳	72歳
総数	22名	84.1歳		

【研修会報告】

① 外部研修会

月	日	研修名	参加人員
4	26	平成30年度介護技術研修（基本編） 主催：神奈川県社会福祉協議会	2
5	10	平成30年度介護技術研修（基本編） 主催：神奈川県社会福祉協議会	2
	25	認知症キャラバン・メイト養成研修 主催：認知症の人と家族を支えるマーク	1
	9	介護保険制度の動向と介護支援専門員の展望 主催：神奈川県介護支援専門員協会	1
	11		
	12	平成30年度神奈川相談支援事業者（障害）プレ研修 主催：神奈川県	1
	26		
	27		
	11	平成30年度初任者キャリアパス（新卒対象） 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	12		
6	15	医師会在宅相談室 主催：荻野地域包括支援センター	4
	12		
	14	平成30年度専門研修課程（ケアマネ更新研修） 主催：かまくら地域介護支援機構	1
	18		
	21		
	27	平成30年度第1回神奈川県認知症地域支援推進員研修 主催：神奈川県福祉子供未来局	1
	28		
	29	平成30年度第1回神奈川県サービス管理者補足研修 主催：かながわ障害ケアマネジメントネットワーク	1
	29	対人援助技術指導 実践で学ぶ面接技術 主催：神奈川県介護支援専門員協会	1
	3	第17回かながわ福祉研究大会 主催：神奈川県社会福祉協議会	12
	4		
	9	平成30年度チームリーダーキャリアパス 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
7	12	平成30年度モチベーションマネジメント研修 主催：神奈川県社会福祉協議会	3
	18		
	19	平成30年度神奈川相談支援事業者（障害）プレ研修 主催：神奈川県	1
	31		
	2		
	8	平成30年度喫煙吸引研修 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	15		
	17		
	27		
	22	平成30年度中堅キャリアパス 主催：神奈川県社会福祉協議会	2

	23		
	27	平成30年度チームリーダーキャリアバス 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	29	介護技術研修会（新人職員対象）	2
	28	平成30年度神奈川相談支援事業者（障害）プレ研修 主催：神奈川県	1
	29	平成30年度中堅キャリアバス 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	30	高齢者の身体拘束廃止、虐待防止対策講座 主催：かなべく人材センター	1
	31		
	3	平成30年度嗜癖吸引研修 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	3	平成30年度チームリーダーキャリアバス 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	5	看護、介護連携協働に係る研修 主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
9	13	第57回あつき食支援ネットワーク 主催：厚木医療福祉連絡会	2
	13	平成30年度初任者キャリアバス（社会人経験対象） 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
	14	介護技術研修会（中堅職員対象）主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
	26		
	3	平成30年度神奈川相談支援事業者（障害）プレ研修 主催：神奈川県	1
	8	認知症の本人が語り合う全国の集い in 静岡	2
	15	平成30年度地域包括支援センター職員基礎研修 主催：長寿社会開発センター	1
10	19	障害者福祉サービスと介護保険サービスについて	3
	23	看護、介護連携協働に係る研修 主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
	30	平成30年度全国老人福祉施設研究会議 主催：全国老人福祉施設協議会	6
	31		
	6	平成30年度地域包括支援センター職員基礎研修 主催：長寿社会開発センター	1
	9	身体拘束をせずに事故を防ぐ方法 主催：あいおいニッセイ同和損保	1
	16	平成30年度地域包括支援センター職員基礎研修 主催：長寿社会開発センター	1
	19	サービス提供者責任者研修セミナー 主催：医療経済研究・社会保険福祉協会	1
	20	平成30年度神奈川相談支援事業者（障害）プレ研修 主催：神奈川県	1
11	21	平成30年度ケアマネ・ヘルパー部会 主催：厚木医療福祉連絡会	6
	21	アンガーマネジメントについて	5
	28	強度行動障害について	1
	28	厚木警察署の防犯対策について 主催：厚木市夜会福祉連絡会	3
	30	『私たちもおくりひと』 主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	10
	12	平成30年度エルダー研修（集団研修） 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
12	19	加藤 忠相 講演 主催：厚木市福祉専務課	2
	19	平成30年度神奈川県主催権利擁護・身体拘束廃止推進研修会 主催：神奈川県社会福祉協議会	1
1	12	アローチャートでアセスメント 主催：神奈川県介護支援専門員協会	1

	17	介護保険施設等看護研修Ⅲ（管理レベル） 主催：神奈川県看護協会地域看護課	1
	22	感染症対策～結核をもっと知ろう～ 主催：厚木市立病院患者支援センター	1
	23	介護保険施設等看護研修Ⅲ（管理レベル） 主催：神奈川県看護協会地域看護課	1
	30	生活相談員研修：利用者・家族からのクレーム、トラブル解決力アップ 主催：高齢者福祉施設協議会	1
2	2	介護保険施設等看護研修Ⅲ（管理レベル） 主催：神奈川県看護協会地域看護課	1
	8	VR体験、認知症のリアル 主催：神奈川工科大学	8
	15	身寄りのない方の支援 主催：荻野地域包括支援センター	8
	22	緩和ケアにおける薬物療法 主催：厚木市立病院	1
3	1	実践で学ぶ面接技術 主催：介護支援専門員協会	1
	1	平成30年度新任行動力強化研修 主催：神奈川県社会福祉協議会	1

② 施設内研修会

月	日	研修名	参加人員
6	20	『認知症ケアについて、みんなで考えよう』	76
11	13	『介護技術～生活の場でのリハビリテーション～』	72
2	19	身体拘束	67

③ 幹部職員研修会

月	日	研修名	参加人員
5	18	決算処理	4
6	8		13
7	12		13
8	24		13
9	14		13
10	12		13
11	16		13
12	14		13
1	18		13
2	8		11
3	8		11